

第2章 退所者調査

1 調査概要

(1) 調査の目的

措置解除者等の生活状況や生活上の課題、支援ニーズ等を把握することを目的として、退所から現在までの状況をたずねる本人記入調査を実施した。

また、2020年に実施された三菱UFJリサーチ&コンサルティング『児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査』（以下『2020年全国調査』と略記）の調査結果と今回調査結果とを比較し、経年の変化を考察する。なお、『2020年全国調査』の調査対象者は、2015年度～2019年度の退所者である。

(2) 調査対象

- ① 施設等を退所した者
- ② 里親またはファミリーホーム事業者の委託を解除された者
- ③ 児童自立生活援助の実施を解除された者

上記①～③の対象者の内、過去5年（2018年度～2022年度）の退所者で、15歳以上の義務教育を修了した者を調査の対象とした。

(3) 調査方法

退所した本人を回答者とする Web 調査とした。

(4) 実施期間

2023年11月1日～11月30日

(5) 回答件数

調査対象者 531 件に対し 193 件の回答が得られた。回答率は 36.3%であった。

(6) 調査項目

調査項目については、次ページ図表 2-1 のとおり 9 項目 45 問を設問した。

図表 2-1 退所者調査の調査項目

設問種別	設問内容
(1) 基本属性	① 性別と年齢 ② 居住地 ③ 退所年度 ④ 最後に生活していた施設等の種類 ⑤ 最後の施設等での入所期間 ⑥ 退所直後の進路
(2) 現在の就労と進学	① 現在の就労・進学の状況 ② 雇用形態 ③ 求職活動、転職経験とその理由 ④ 現在の進学先 ⑤ 中退・休学の経験とその理由
(3) 住まいと同居家族	① 現在の住まい ② 現在の同居者 ③ 同居している子どもの年齢
(4) 家計と収入	① 収支バランス ② 月収 ③ 貯蓄と借金 ④ ローンや借金の理由
(5) 健康状態と通院状況	① 身体の状態 ② 心・精神の状態 ③ 過去1年間の通院の可否 ④ 過去1年間に通院できなかった理由
(6) 施設等とのかかわり	① 退所前の不安 ② 入所中の意思表示 ③ 施設等からの連絡頻度とその充足度 ④ 回答者から施設等への連絡頻度
(7) 退所前の自立支援	① 自立準備の満足度 ② 自立準備開始時期とその評価 ③ 施設等で受けた自立支援の内容 ④ 施設等の自立支援の評価 ⑤ 自立支援への意見
(8) 悩みと支援ニーズ	① 現在困っていること ② 対人関係における心理的障壁 ③ 現在の相談相手 ④ 退所後に受けたサポートとその評価
(9) 心のよりどころ	① 嬉しかったことを伝える相手 ② 安心安全な居場所とその内容

(7) 集計・分析に関する留意事項

報告書本編に取り上げたクロス集計は、統計的に有意と判断されたものについてコメントしている。統計的に有意とした判断基準は、以下 3 項目を満たすもの。

① 回答数 10 件 (n=10) 以上

特に、施設等の種類によるクロス集計は、施設以外の回答数が少ないため、基本的に本編では取り上げていない。

② カイ二乗検定³ P 値 0.05 以下

③ 残差分析⁴ 調整済み標準化残差が、±1.96 以上

また、『2020 年全国調査』と同じ設問項目では、『2020 年全国調査』と今回調査の構成比を比較し、±10%以上の差がみられた項目について取り上げる。

3 カイ二乗検定は、2つのグループの比率に差異があるかどうかを判断する検定（資料編 148 ページ参照）。

4 残差分析は、カイ二乗検定で統計的に有意な差異があるとされたグループの中で、カテゴリー間の有意差を分析する手法（資料編 148 ページ参照）。

2 調査結果

(1) 基本属性

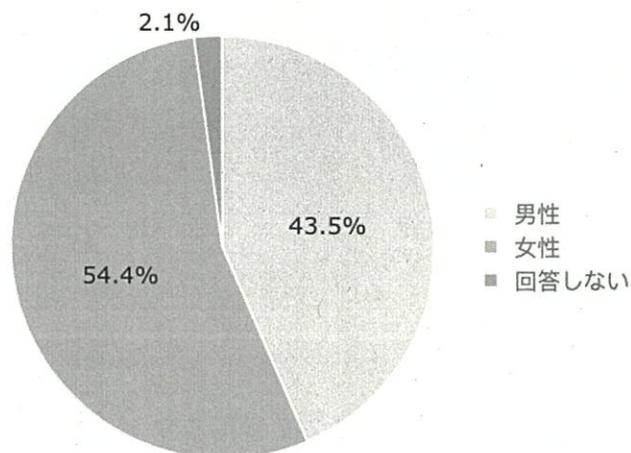
基本的な属性として、性別と年齢、居住地、退所年度、最後に生活していた施設の種類と入所期間、退所直後の進路についてたずねた。

① 性別と年齢

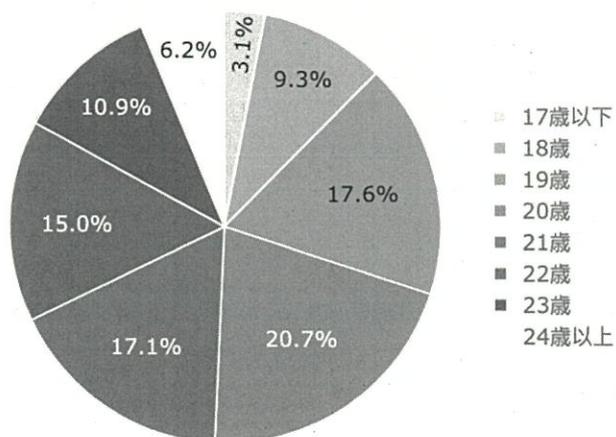
性別については、「女性」54.4%、「男性」43.5%と、男性よりも女性の回答が10.9ポイント（以下pと表記）多い。また、「回答しない」は2.1%となった（図表2-2）。

年齢については、「20歳」が20.7%と最も多く、次いで「19歳」17.6%、「21歳」17.1%「22歳」15.0%となった（図表2-3）。

図表 2-2 性別 n=193



図表 2-3 年齢 n=193



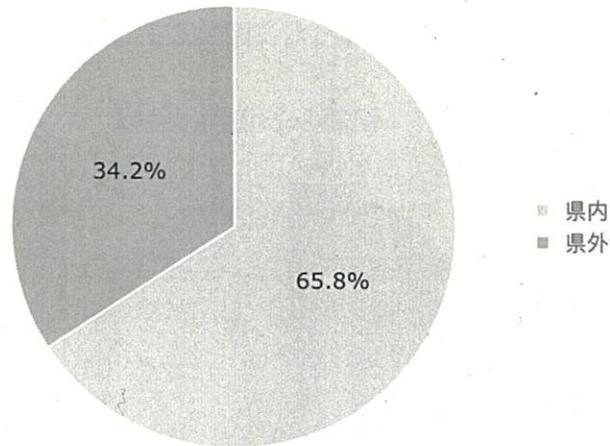
② 居住地

居住地についてみると、熊本「県内」が65.8%、「県外」が34.2%と、約3分の2が県内に在住している（図表 2-4）。

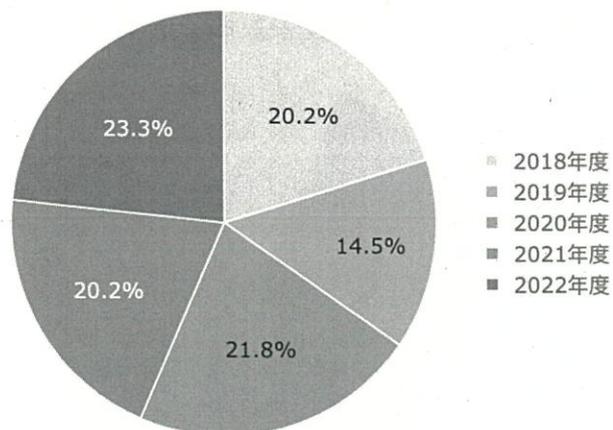
③ 退所年度

最後に生活していた施設等を退所した年度をみると、「2018 年度」が 20.2%、「2019 年度」14.5%、「2020 年度」21.8%、「2021 年度」20.2%、「2022 年度」23.3%となっている（図表 2-5）。

図表 2-4 居住地 n=193



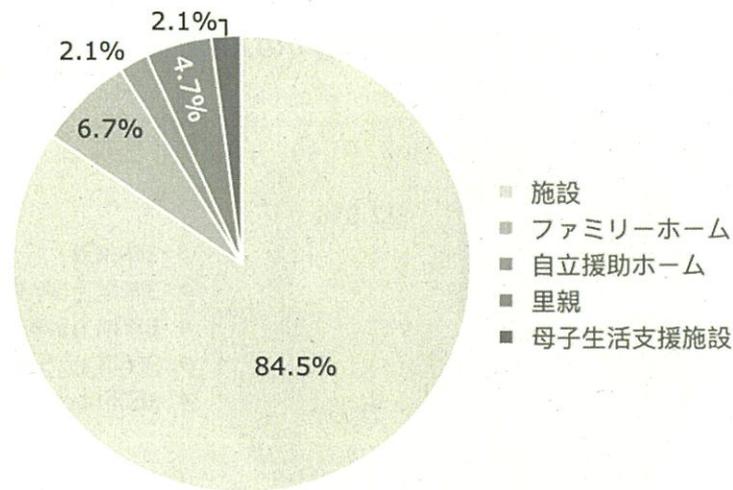
図表 2-5 退所年度 n=193



④ 最後に生活していた施設等の種類

最後に生活していた施設等の種類（以下 施設等の種類 と略記）は、「施設」84.5%、「ファミリーホーム」6.7%、「里親」4.7%、「自立援助ホーム」と「母子生活支援施設」がそれぞれ2.1%と、「施設」が大多数を占めている（図表 2-6）。参考値として、施設等の種類を性別と退所年度別で比較した表を掲載する（図表 2-7）。

図表 2-6 最後に生活していた施設等の種類 n=193



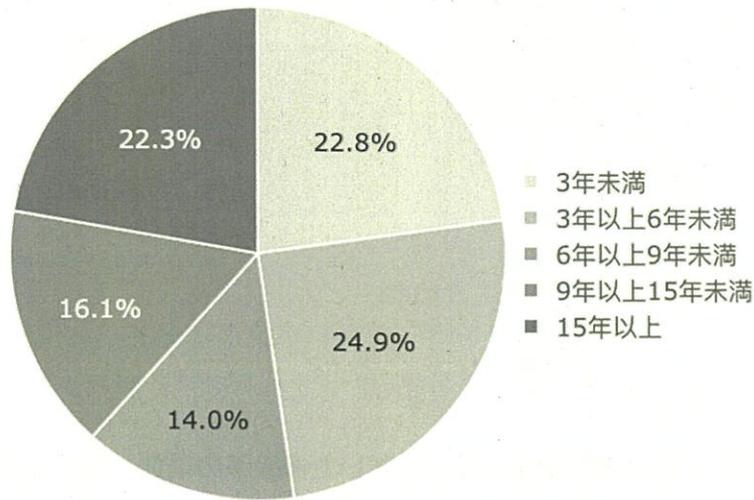
図表 2-7 参考値：最後に生活していた施設等の種類×性別・退所年度

上段：度数 下段：%	性別			退所年度					回答者数	
	男性	女性	回答しない	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		
合計	84 43.5%	105 54.4%	4 2.1%	26 13.5%	28 14.5%	42 21.8%	39 20.2%	40 20.7%	193 100.0%	
施設等の種類	施設	74 45.4%	85 52.1%	4 2.5%	33 20.2%	26 16.0%	37 22.7%	34 20.9%	33 20.2%	163 -
	ファミリーホーム	6 46.2%	7 53.8%	0 0.0%	2 15.4%	2 15.4%	3 23.1%	4 30.8%	2 15.4%	13 -
	自立援助ホーム	1 25.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	4 -
	里親	3 33.3%	6 66.7%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	2 22.2%	1 11.1%	5 55.6%	9 -
	母子生活支援施設	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	4 -

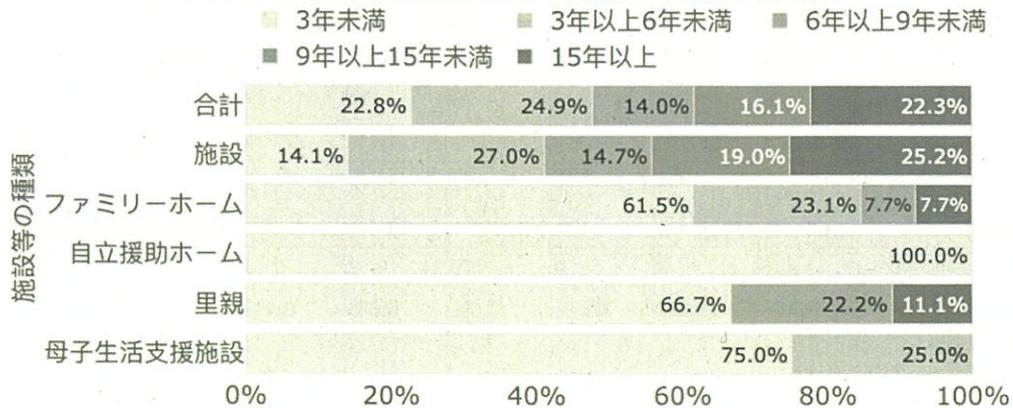
⑤ 最後の施設等での入所期間

最後の施設等での入所期間は、「3年未満」22.8%、「3年以上6年未満」24.9%、「6年以上9年未満」14.0%、「9年以上15年未満」16.1%、「15年以上」22.3%であった（図表 2-8）。また、最後の施設等での入所期間と施設等の種類の関連をみると、施設では「15年以上」が25.2%、「9年以上15年未満」が19.0%と、里親やファミリーホームなどよりも入所期間が長くなっている（図表 2-9）。

図表 2-8 最後の施設等での入所期間 n=193



図表 2-9 最後の施設等での入所期間×施設等の種類

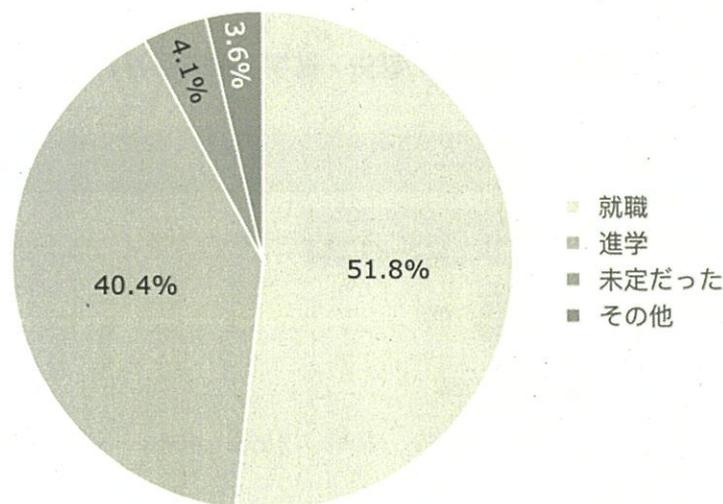


⑥ 退所直後の進路

退所直後の進路については、「就職」51.8%、「進学」40.4%、「未定だった」4.1%、「その他」3.6%であった（図表 2-10）。

『2020 年全国調査』で退所直後の進路をみると、熊本県では「就職」69.2%（全国 53.5%）、「進学」25.3%（全国 36.3%）と、全国に比べて進学よりも就職が圧倒的に多かった（図表 2-11）。単純に比較はできないが、『2020 年全国調査』の熊本県の構成比と今回の構成比とを比較すると（以下『2020 年全国調査』と比較すると略記）、「就職」が 17.4p 減少し、「進学」が 15.1p 増加し、『2020 年全国調査』の全国の値に近づいている。

図表 2-10 退所直後の進路 n=193



図表 2-11 退所直後の進路×2020 年全国調査

上段：度数 下段：%		就職	進学	未定だっ た	その他	無回答	回答者数
2020年 全国調査	全国	1593 53.5%	1083 36.3%	137 4.6%	143 4.8%	24 0.8%	2980 100.0%
	熊本県	63 69.2%	23 25.3%	3 3.3%	2 2.2%	0 0.0%	91 100.0%
今回調査	熊本県	100 51.8%	78 40.4%	8 4.1%	7 3.6%	0 0.0%	193 100.0%

(2) 現在の就労と進学

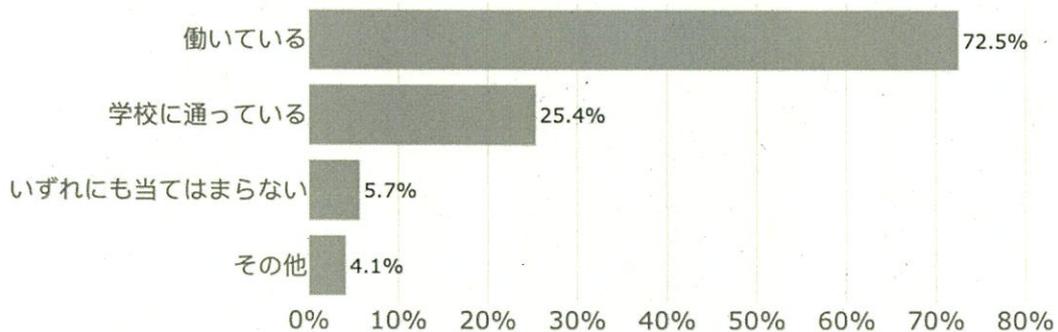
現在の就労については、雇用形態、求職活動、転職経験と転職理由をたずねた。また、進学については、進学先、中退・休学経験とその理由について質問した。

① 現在の就労・進学の状況

現在の就労・進学の状況については、「働いている」72.5%、「学校に通っている」25.4%と、4分の3近くが就労している（図表 2-12）。

単純に比較はできないが、『2020 年全国調査』と比較すると、「働いている」が減少し、相対的に「学校に通っている」が 10.0p 増え、進学率が高まっていると推察される（図表 2-13）。

図表 2-12 現在の就労・進学 [複数回答] n=193



図表 2-13 現在の就労・進学×2020 年全国調査

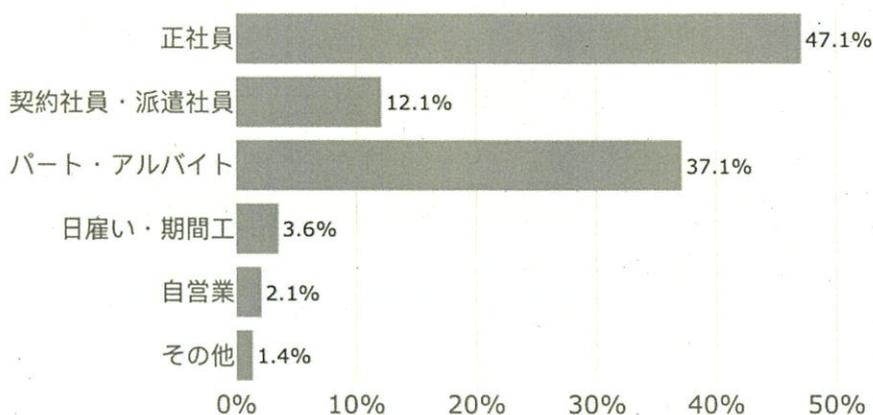
上段：度数 下段：%		働いてい る	学校に 通ってい る	いずれに も当ては まらない	その他	無回答	回答者数
2020年 全国調査	全国	2115 71.0%	686 23.0%	289 9.7%	153 5.1%	26 0.9%	2980
	熊本県	75 82.4%	14 15.4%	5 5.5%	1 1.1%	1 1.1%	91
今回調査	熊本県	140 72.5%	49 25.4%	11 5.7%	8 4.1%	0 0.0%	193

② 雇用形態⁵

現在の就労・進学状況で「働いている」と回答した者の雇用形態は、「正社員」が最も多く47.1%、次いで「パート・アルバイト」37.1%、「契約社員・派遣社員」12.1%となった（図表 2-14）。

単純に比較はできないが、『2020 年全国調査』と比較すると、「正社員」が△26.2p 減少し、「パート・アルバイト」が18.4p 増えている（図表 2-15）。

図表 2-14 雇用形態【複数回答】 n=140



図表 2-15 雇用形態×2020 年全国調査

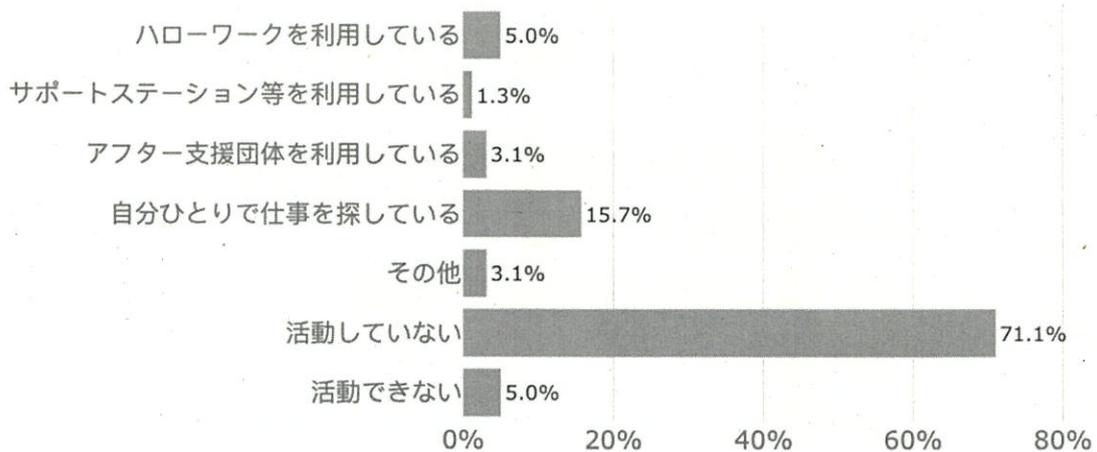
上段：度数 下段：%		正社員	契約社員・派遣社員	パート・アルバイト	日雇い・期間工	自営業	その他	わからない	無回答	回答者数
2020年 全国調査	全国	1096 51.8%	181 8.6%	729 34.5%	27 1.3%	31 1.5%	71 3.4%	33 1.6%	4 0.2%	2115 100.0%
	熊本県	55 73.3%	2 2.7%	14 18.7%	0 0.0%	0 0.0%	4 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	75 100.0%
今回調査	熊本県	66 47.1%	17 12.1%	52 37.1%	5 3.6%	3 2.1%	2 1.4%	2 1.4%	2 1.4%	140 100.0%

⁵ 現在の就労・進学で「働いている」を選択した回答者(n=140) にたずねた。

③ 求職活動⁶、転職経験⁷とその理由

求職活動については、「活動していない」71.1%となった(図表 2-16)。一方で、求職活動をしている回答者の求職活動の方法は、「自分ひとりで仕事を探している」15.7%、「ハローワークを利用している」5.0%となった。

図表 2-16 求職活動 [複数回答] n=159



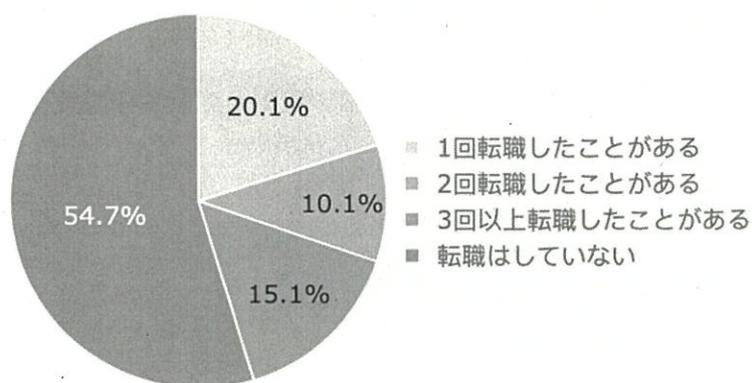
6 現在の就労・進学で「学校に通っている」以外を選択した回答者(n=159) にたずねた。

7 上記 6 と同様

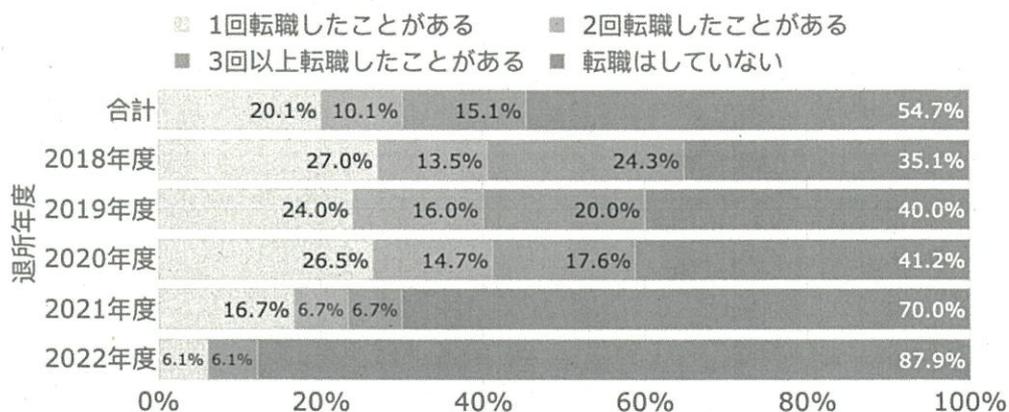
転職経験については、「転職はしていない」54.7%と、半数以上が転職経験はないと回答している(図表 2-17)。一方で、転職経験がある回答者は、「1 回転職したことがある」20.1%、「2 回転職したことがある」10.1%、「3 回以上転職したことがある」15.1%となった。

転職活動と退所年度の関連をみると、退所から年数が経過するほど転職経験が増えている(図表 2-18)。

図表 2-17 転職経験 n=159

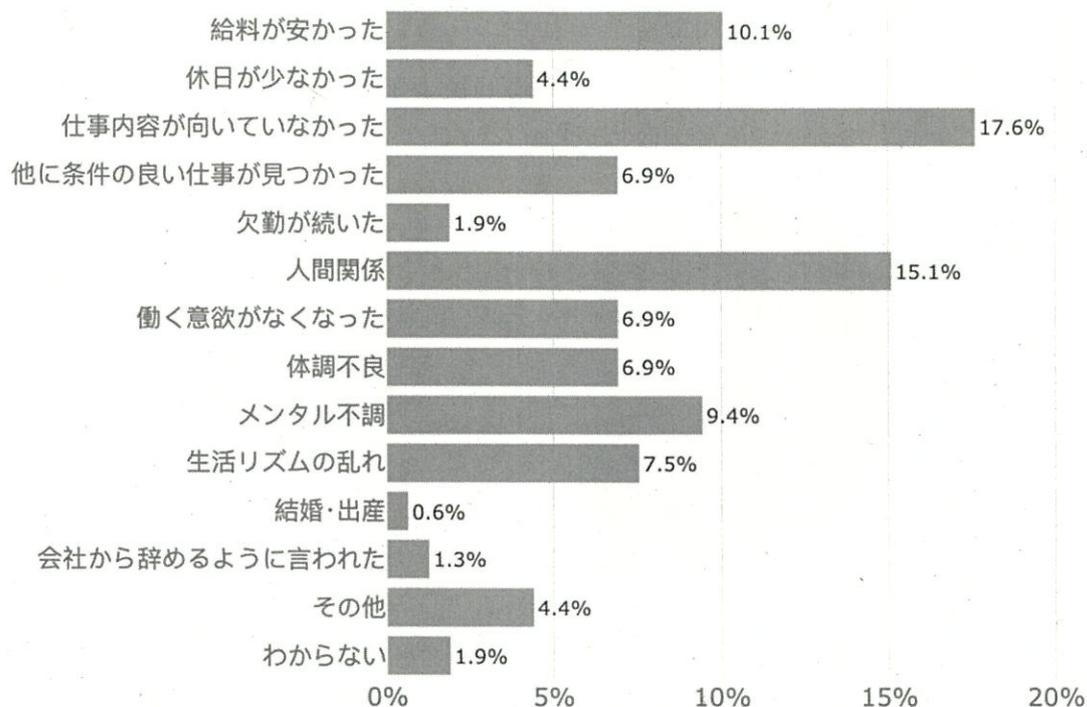


図表 2-18 転職経験×退所年度



転職経験のある回答者⁸に転職理由をたずねると、「仕事内容が向いていなかった」が17.6%と最も多く、次いで「人間関係」15.1%、「給料が安かった」10.1%、「メンタル不調」9.4%となった（図表 2-19）。

図表 2-19 転職理由【複数回答】n=159



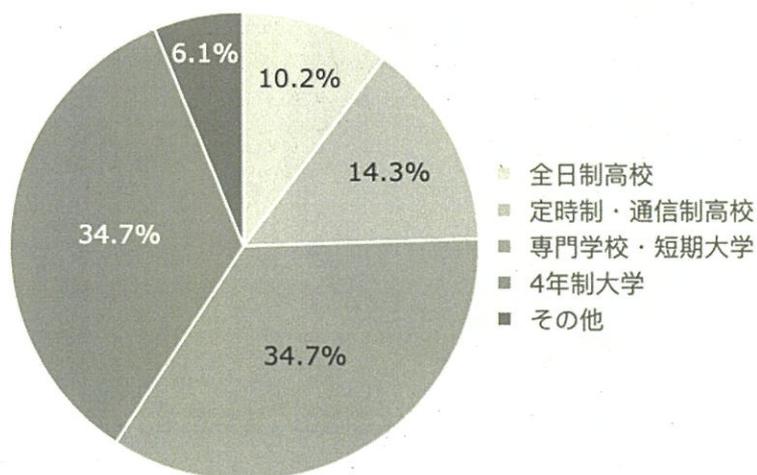
8 現在の就労・進学で「学校に通っている」以外を選択した回答者(n=159)にたずねた。

④ 現在の進学先⁹

現在の就労・進学状況で「学校に通っている」と回答した者の進学先は、「全日制高校」10.2%、「定時制・通信制高校」14.3%、「専門学校・短期大学」と「4年制大学」がそれぞれ34.7%となった（図表 2-20）。

単純に比較はできないが、『2020年全国調査』と比較すると、「専門学校・短期大学」が△15.3p減少し、「4年制大学」が20.4p増加している（図表 2-21）。

図表 2-20 現在の進学先 n=49



図表 2-21 現在の進学先×2020年全国調査

上段：度数 下段：%		全日制高校	定時制・通信制高校	専門学校・短期大学	4年制大学	その他	無回答	回答者数
2020年 全国調査	全国	131 19.1%	68 9.9%	212 30.9%	245 35.7%	26 3.8%	4 0.6%	686
	熊本県	2 14.3%	1 7.1%	7 50.0%	2 14.3%	2 14.3%	0 0.0%	14
今回調査	熊本県	5 10.2%	7 14.3%	17 34.7%	17 34.7%	3 6.1%	0 0.0%	49

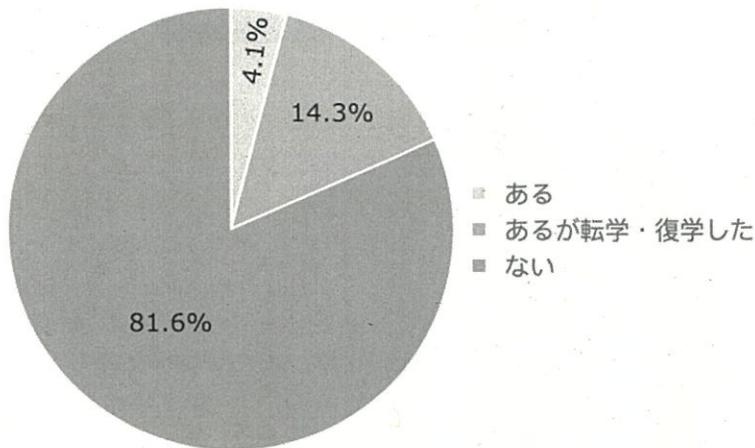
⁹ 現在の就労・進学で「学校に通っている」を選択した回答者(n=49)にたずねた。

⑤ 中退・休学の経験¹⁰とその理由¹¹

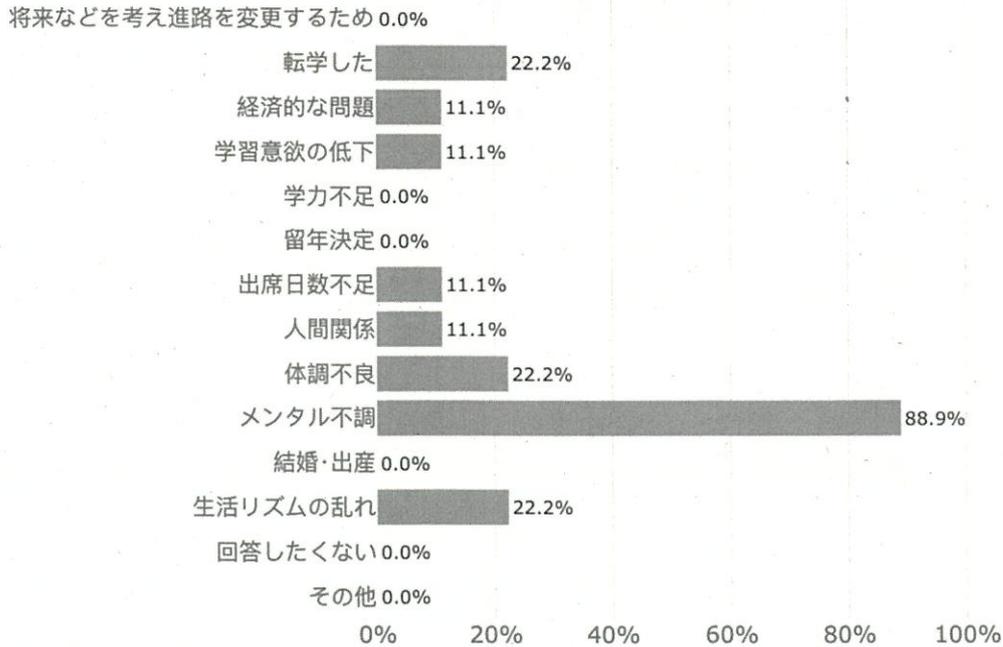
中退・休学の経験は、「ない」が 81.6%と大多数を占め、「中退・休学したが転学・復学した」14.3%、「ある」4.1%であった（図表 2-22）。

中退・休学の理由については、「メンタル不調」88.9%、「（自分に合った/通いやすいなどの理由で）転学した」、「体調不良」、「生活リズムの乱れ」がそれぞれ 22.2%であった（図表 2-23）。

図表 2-22 中退・休学の経験 n=49



図表 2-23 中退・休学理由 [複数回答] n=9



10 現在の就労・進学で「学校に通っている」を選択した回答者(n=49)にたずねた。

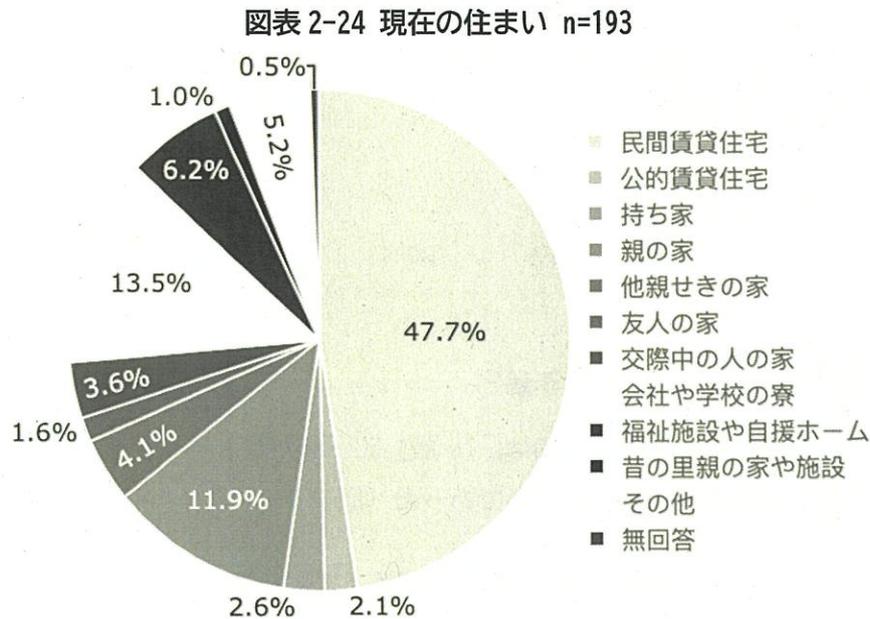
11 中退・休学の経験が「ない」以外を選択した回答者(n=9)にたずねた。

(3) 住まいと同居家族

① 現在の住まい

現在の住まいは、「民間賃貸住宅」が 47.7%と半数近くを占めた。次いで、「会社や学校の寮」13.5%、「親の家」11.9%、「福祉施設、自立援助ホーム」6.2%となった（図表 2-24）。

単純に比較はできないが、現在の住まいの上位 4 項目を『2020 年全国調査』と比較すると、「会社や学校の寮」が△25.0p 減少し、「民間賃貸住宅」が 11.4p 増加している（図表 2-25）。



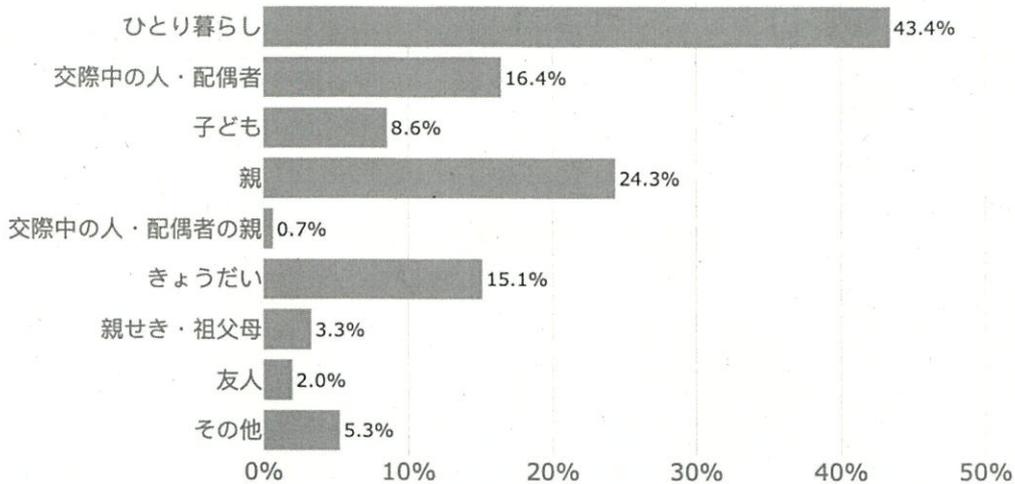
図表 2-25 現在の住まい×2020 年全国調査

上段：度数 下段：%		民間賃貸住宅	会社や学校の寮	親の家	福祉施設、自立援助ホーム	回答者数
2020年 全国調査	全国	1249 41.9%	570 19.1%	515 17.3%	255 8.6%	2980
	熊本県	33 36.3%	35 38.5%	12 13.2%	4 4.4%	91
今回調査	熊本県	92 47.7%	26 13.5%	23 11.9%	12 6.2%	193

② 現在の同居者¹²

現在の同居者についてたずねると、「ひとり暮らし」が43.4%と最も多く、次いで「親」24.3%、「交際中の人・配偶者」16.4%、「きょうだい」15.1%となった（図表 2-26）。

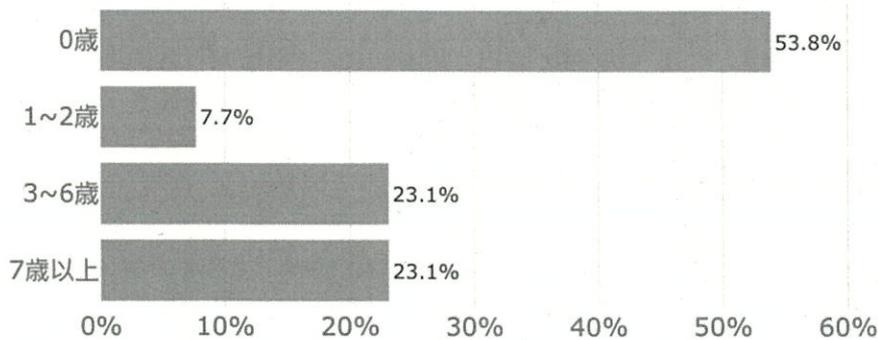
図表 2-26 現在の同居者【複数回答】 n=152



③ 同居している子どもの年齢¹³

同居している子どもの年齢は、「0歳」53.8%が最も多く、次いで「3～6歳」と「7歳以上」がそれぞれ23.1%であった（図表 2-27）。

図表 2-27 子どもの年齢【複数回答】 n=13



12 現在の住まいで「会社や学校の寮」「福祉施設、自立援助ホーム」「以前住んでいた里親の家や施設」「無回答」以外の回答者(n=152)にたずねた。

13 現在の同居者で「子ども」を選択した回答者(n=13)にたずねた。

(4) 家計と収入

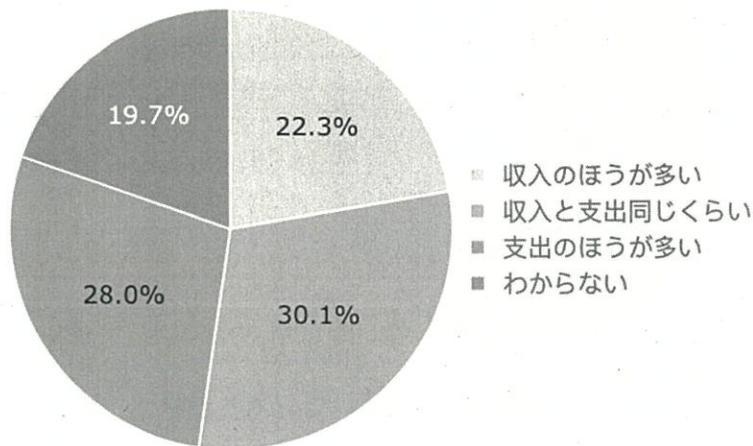
ここでは、収支バランス、月収、貯金と借金、ローンや借金の理由についてみていく。

① 収支バランス

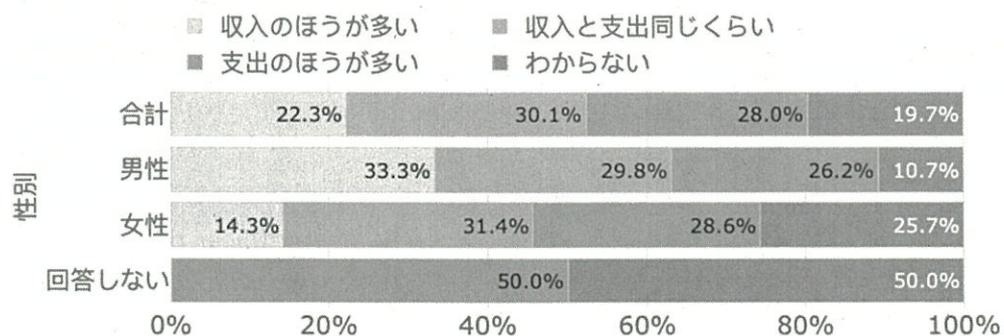
収支バランスについては、「収入の方が多い」22.3%、「収入と支出同じくらい」30.1%、「支出の方が多い」28.0%、「わからない」19.7%となった(図表 2-28)。

収支バランスと性別の関連をみると、男性は「収入の方が多い」33.3%、「収入と支出同じくらい」29.8%となっているが、女性は「収入の方が多い」14.3%、「収入と支出同じくらい」31.4%と、男性の方が経済的なゆとりがあるようだ(図表 2-29)。収支バランスは、多くの設問と相関がみられたため、その内容は別途 6 章で述べる(121 ページ参照)。

図表 2-28 収支バランス n=193



図表 2-29 収支バランス×性別

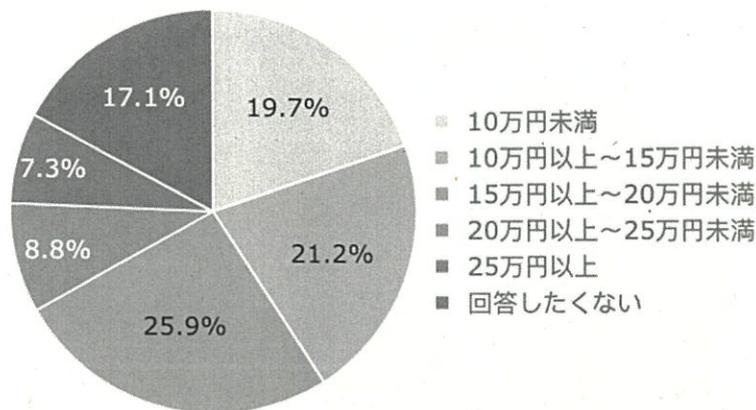


② 月収¹⁴

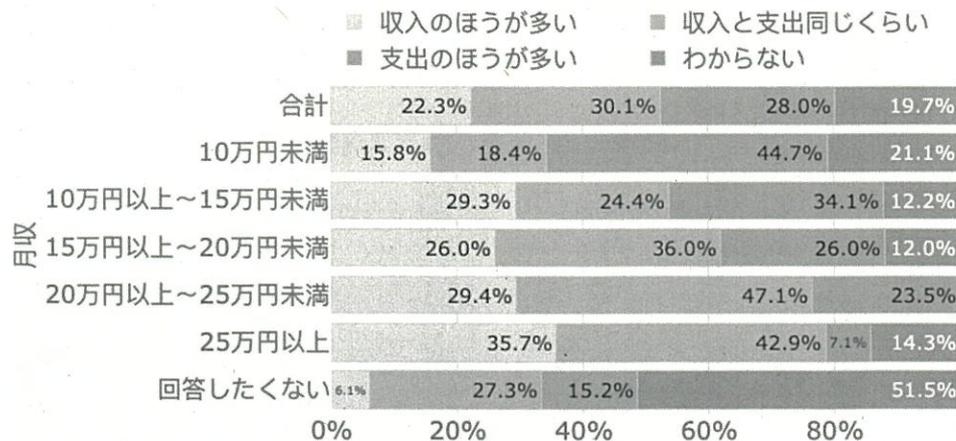
おおよその月収については、「10万円未満」が19.7%、「10万円以上～15万円未満」が21.2%、「15万円以上～20万円未満」が25.9%、「20万円以上～25万円未満」が8.8%、「25万円以上」が7.3%となった(図表2-30)。また、「回答したくない」も17.1%と比較的多くなっている。

収支バランスと月収の関連をみると、月収が10万円未満では「支出の方が多い」が44.7%、「収入と支出はほとんど同じくらい」が18.4%となっている(図表2-31)。月収が15万円以上20万円未満になると、「支出の方が多い」が26.0%、「収入と支出はほとんど同じくらい」が36.0%となり、当然のことではあるが、月収が増えるにつれて、収支バランスが黒字になる傾向がみられる。

図表2-30 月収 n=193



図表2-31 収支バランス×月収



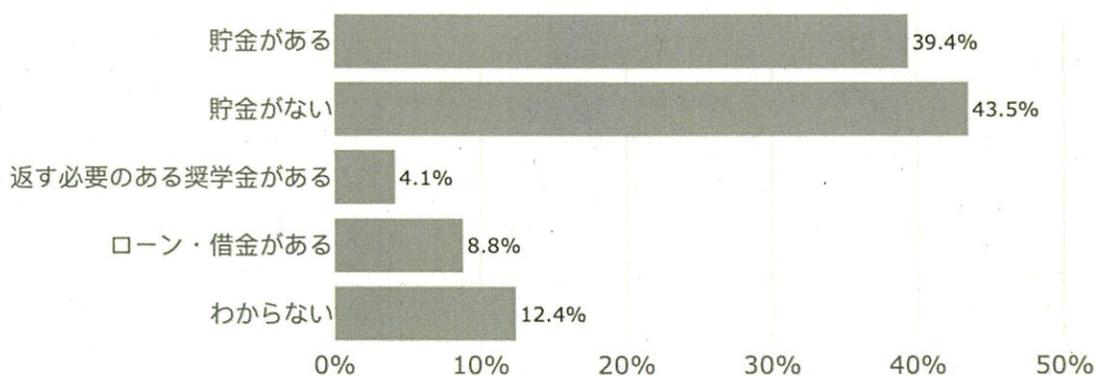
14 月収とは、給料、年金、奨学金などのおおよその手取り額。

③ 貯蓄と借金¹⁵

貯蓄と借金については、「貯金がある」は 39.4% (図表 2-32)。一方で、「貯金がない」が 43.5%、「ローン・借金がある (奨学金を除く)」が 8.8%、「返す必要のある奨学金がある」4.1%となった。

単純に比較はできないが、『2020 年全国調査』と比較すると、「ローン・借金がある (奨学金は除く)」が△26.4p と大幅に減少し、2020 年調査時よりも負債状況は改善していると思われる (図表 2-33)。

図表 2-32 貯金と借金 [複数回答] n=193



図表 2-33 貯蓄と借金×2020 年全国調査

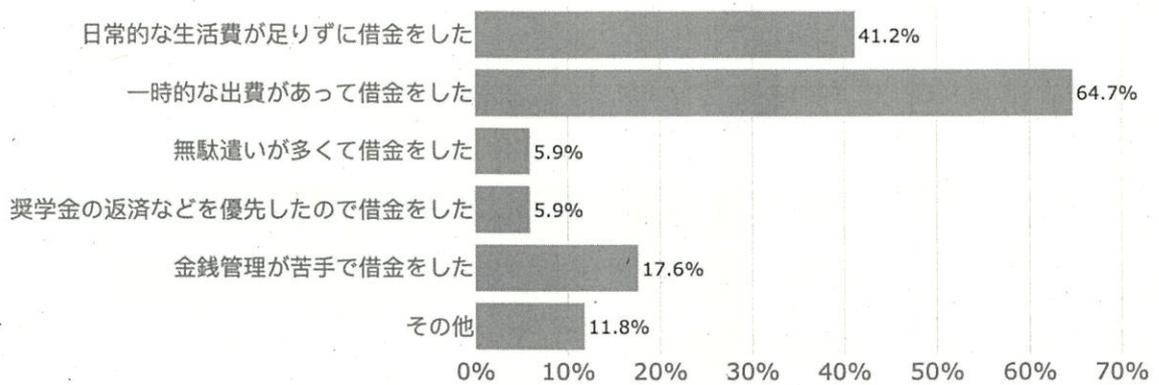
上段：度数 下段：%		貯金がある	貯金がない	返す必要のある奨学金がある	ローン・借金がある	わからない	無回答	回答者数
2020年 全国調査	全国	1459 49.0%	-	381 12.8%	562 18.9%	747 25.1%	70 2.3%	2980
	熊本県	42 46.2%	-	9 9.9%	32 35.2%	15 16.5%	3 3.3%	91
今回調査	熊本県	76 39.4%	84 43.5%	8 4.1%	17 8.8%	24 12.4%	0 0.0%	193

15 「貯金がない」は、今回調査の新設選択肢のため、2020 年全国調査のデータなし。

④ ローンや借金の理由¹⁶

貯金や借金で「ローン・借金がある（奨学金を除く）」と回答した者に、その理由についてたずねた。「一時的な出費があって借金をした」64.7%、「日常적인生活費が足りずに借金をした」41.2%となった(図表 2-34)。

図表 2-34 ローンや借金の理由 [複数回答] n=17



16 貯蓄と借金で「ローンや借金がある（奨学金は除く）」を選択した回答者(n=17)にたずねた。

(5) 健康状態と通院状況

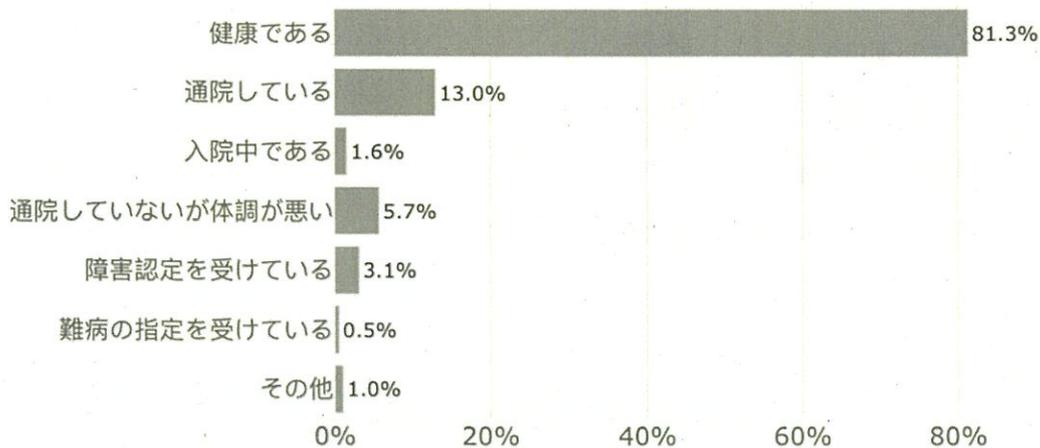
ここでは、身体と心・精神の健康状態、過去1年間の通院の可否とその理由についてみていく。

① 身体の状態

現在の身体の状態については、「健康である」が81.3%と大多数を占めた(図表2-35)。一方で、「通院している」が13.0%、「通院していないが体調が悪い」が5.7%となった。

現在の身体の状態を性別で見ると、男性は「健康である」が92.9%であるが、女性は「健康である」が72.4%と男性よりも少なく、「通院している」が19.0%と、男性よりも身体不調の傾向がうかがえる(図表2-36)。

図表2-35 身体の状態 [複数回答] n=193



図表2-36 身体の状態×性別

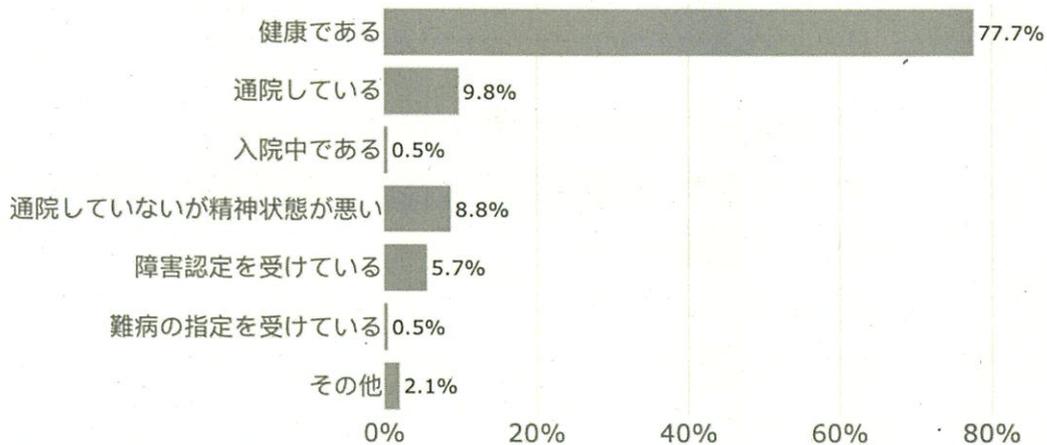
上段：度数 下段：%		健康である	通院している	通院していないが 体調が悪い	障害認定 を受けて いる	入院中 である	難病の指 定を受け ている	その他	回答者数
合計		157 81.3%	25 13.0%	11 5.7%	6 3.1%	3 1.6%	1 0.5%	2 1.0%	193 100.0%
性別	男性	78 92.9%	5 6.0%	4 4.8%	1 1.2%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	105 -
	女性	76 72.4%	20 19.0%	6 5.7%	5 4.8%	2 1.9%	1 1.0%	2 1.9%	84 -
	回答しない	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 -

② 心・精神の健康状態

現在の心・精神の健康状態については、「健康である」77.7%となった(図表 2-37)。一方で、「通院している」が9.8%、「通院していないが心・精神状態が悪い」が8.8%となった。

前述の身体の状態と同様に、男性は「健康である」が89.3%と大多数を占めるが、女性は「健康である」が67.6%と男性よりも少なく、「通院している」が14.3%と、男性よりも心・精神不調の傾向がうかがえる(図表 2-38)。

図表 2-37 心・精神の健康状態 [複数回答] n=193



図表 2-38 心・精神の健康状態×性別

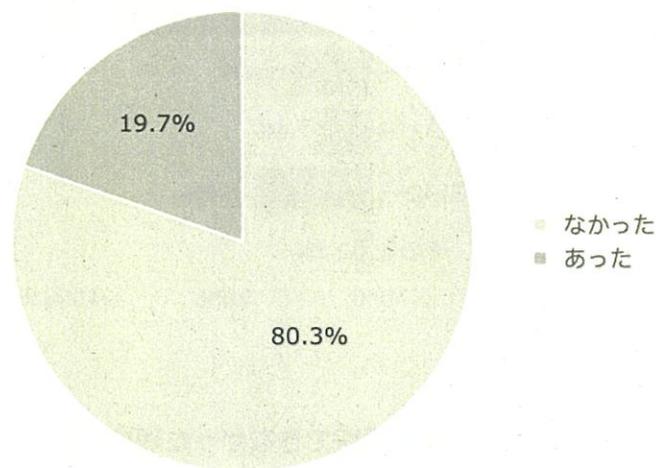
上段：度数 下段：%		健康である	通院している	通院していないが心(精神)の状態が悪い	障害認定を受けている	入院中である	難病の指定を受けている	その他	回答者数
合計		150 77.7%	19 9.8%	17 8.8%	11 5.7%	1 0.5%	1 0.5%	4 2.1%	193 100.0%
性別	男性	75 89.3%	3 3.6%	5 6.0%	3 3.6%	0 0.0%	1 1.2%	1 1.2%	105 -
	女性	71 67.6%	15 14.3%	12 11.4%	7 6.7%	1 1.0%	0 0.0%	3 2.9%	84 -
	回答しない	4 100.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 -

③ 過去1年間の通院の可否

過去1年間の通院の可否（病院や歯医者に行きたいのに行けなかった）については、「なかった」80.3%と多数を占めた（図表2-39）。一方で、「あった」が19.7%と2割弱ではあるが、心身の健康に関わることであるため少なくない数値である。

過去1年間の通院の可否と収支バランスの関連をみると、支出の方が多いと回答した者は、「(通院できないことは)なかった」が66.7%と全体より少なく、「(通院できないことが)あった」が33.3%と、収支バランスが通院の可否に影響していると推察される（図表2-40）。

図表2-39 過去1年間の通院の可否 n=193



図表2-40 過去1年間の通院の可否×収支バランス

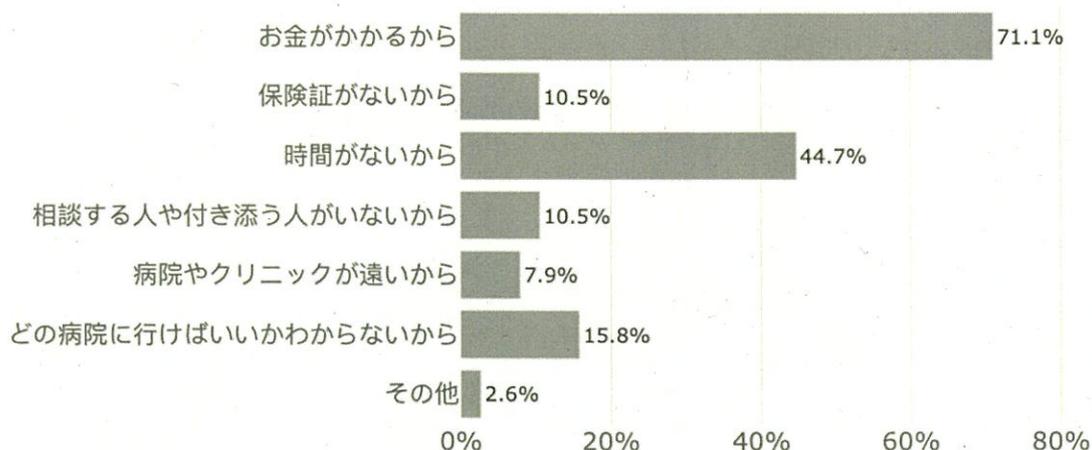


④ 過去1年間に通院できなかった理由¹⁷

過去1年間の通院の可否で「(病院や歯医者に行けなかったことが)あった」と回答した者に、その理由をたずねた。「お金がかかるから」が71.1%と最も多く、次いで「時間がないから」44.7%、「どの病院やクリニックに行けばいいかわからないから」15.8%となった(図表2-41)。

単純に比較はできないが、『2020年全国調査』と比較すると、「時間がないから」が25.9pと大幅に増加している(図表2-42)。

図表2-41 過去1年間に通院できなかった理由【複数回答】n=38



図表2-42 過去1年間に通院できなかった理由×2020年全国調査

上段：度数 下段：%		お金がか かるから	保険証が ないから	時間がな いから	相談する 人や付き 添って くれる人 がない から	病院やク リニック が遠いか ら	どの病院 に行けば いいか わかない から	その他	無回答	回答者数
2020年 全国調査	全国	406 66.7%	68 11.2%	279 45.8%	73 12.0%	51 8.4%	104 17.1%	49 8.0%	3 0.5%	609 100.0%
	熊本県	10 62.5%	1 6.3%	3 18.8%	3 18.8%	0 0.0%	2 12.5%	1 6.3%	0 0.0%	16 100.0%
今回調査	熊本県	27 71.1%	4 10.5%	17 44.7%	4 10.5%	3 7.9%	6 15.8%	1 2.6%	0 0.0%	38 100.0%

17 過去1年間の通院の可否で「(通院できなかったことが)あった」を選択した回答者(n=38)にたずねた。

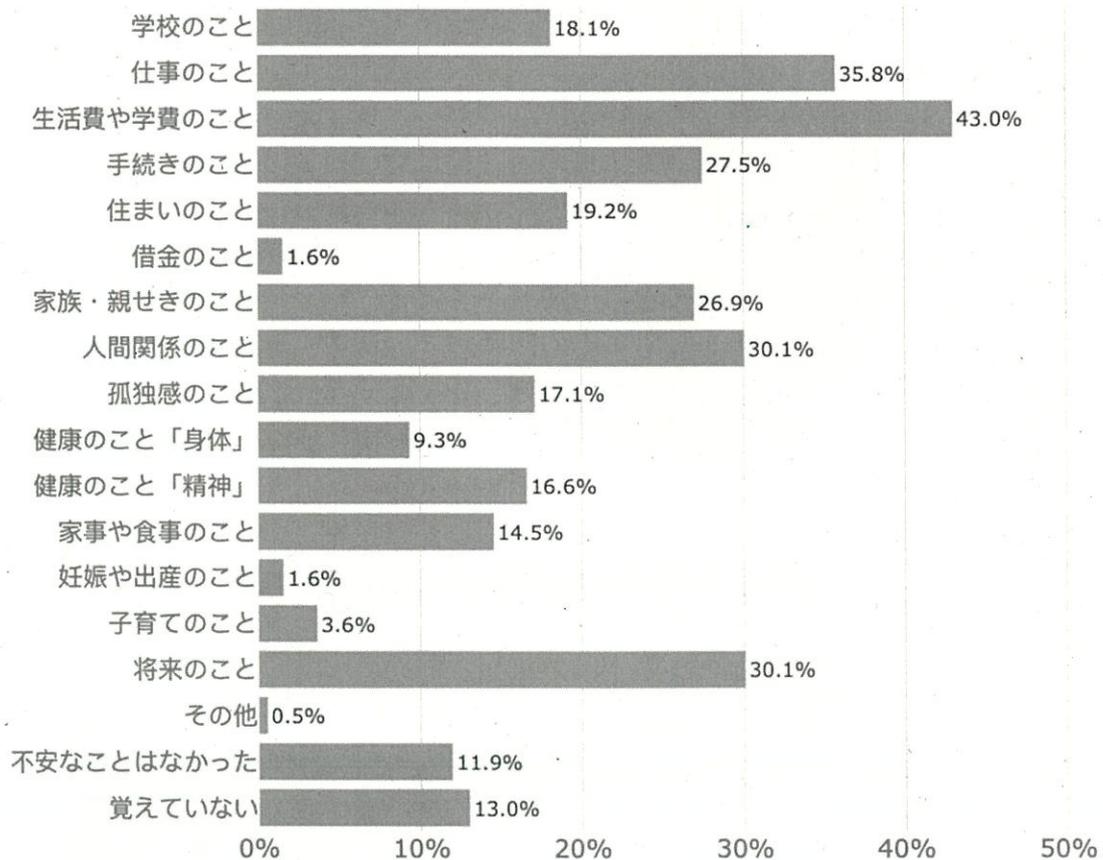
(6) 施設等とのかかわり

施設等とのかかわりとして、退所前の不安、入所中の意思表示、施設等からの連絡頻度とその充足度、回答者から施設等への連絡頻度についてみていく。

① 退所前の不安¹⁸

退所前の不安については、「生活費や学費のこと」が43.0%と最も多く、次いで「仕事のこと」が35.8%、「人間関係のこと」と「将来のこと」がそれぞれ30.1%、「手続きのこと」27.5%、「家族・親せきのこと」が26.9%となった(図表2-43)。

図表2-43 退所前の不安【複数回答】n=193



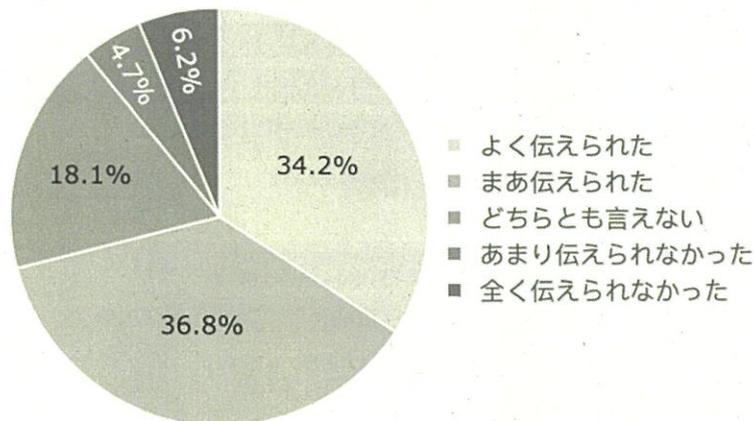
18 「手続きのこと」は、今回調査の新設選択肢のため、2020年全国調査のデータなし。また、今回調査では、「妊娠出産のこと」と「子育てのこと」を分割。

② 入所中の意思表示

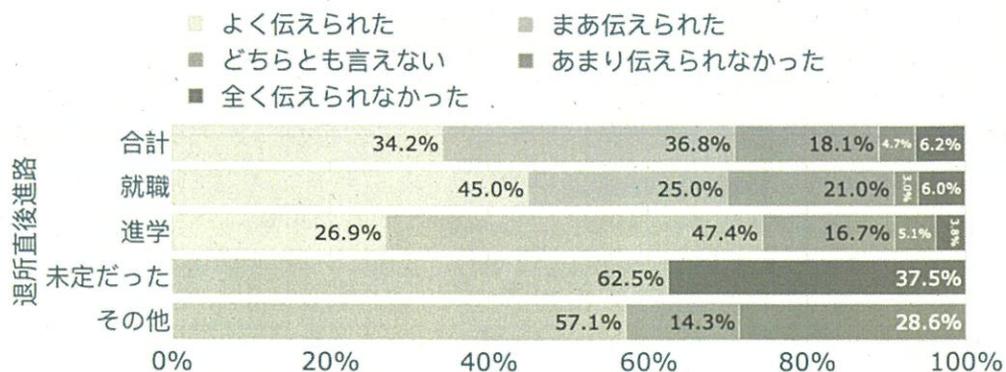
入所中の意思表示（施設等で生活している時、自分の将来について気持ちや希望は十分に伝えられたか）についてたずねたところ、「よく伝えられた」34.2%、「まあ伝えられた」36.8%、「どちらとも言えない」18.1%、「あまり伝えられなかった」4.7%、「全く伝えられなかった」6.2%となった(図表 2-44)。

入所中の意思表示と退所直後の進路の関連をみると、退所直後に就職した者は「よく伝えられた」が45.0%、「まあ伝えられた」が25.0%となった。一方で、進学した者は、就職した者の回答とは逆転し、「よく伝えられた」が26.9%、「まあ伝えられた」が47.4%となった(図表 2-45)。入所中の意思表示は、多くの設問と相関がみられたため、その内容は別途6章で述べる(123 ページ参照)。

図表 2-44 入所中の意思表示 n=193



図表 2-45 入所中の意思表示×退所直後の進路

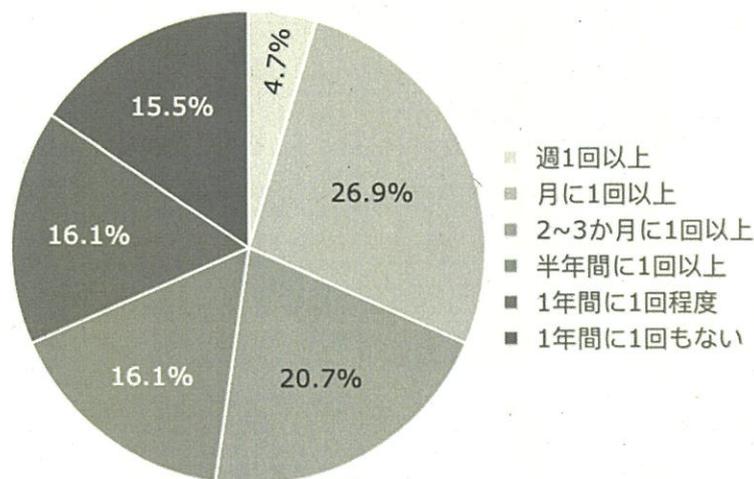


③ 施設等からの連絡頻度¹⁹とその充足度

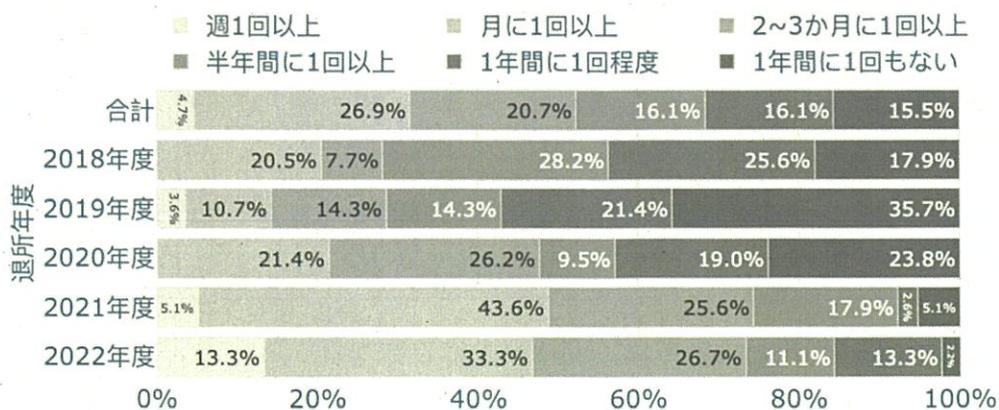
施設等からの連絡頻度は、「月に1回以上」が26.9%と最も多く、次いで「2～3か月に1回以上」20.7%、「半年間に1回以上」と「1年に1回程度」がそれぞれ16.1%、「1年に1回もない」15.5%となった(図表 2-46)。

施設等からの連絡頻度と退所年度の関連をみると、2022年度の退所者は、「週に1回以上」13.3%、「月に1回以上」33.3%と連絡頻度が高くなっている(図表 2-47)。一方で、2018年度の退所者では、「半年に1回以上」28.2%、「1年に1回程度」25.6%と、退所して年数が経過すると連絡頻度が低くなる。

図表 2-46 施設等からの連絡頻度 n=193



図表 2-47 施設等からの連絡頻度×退所年度

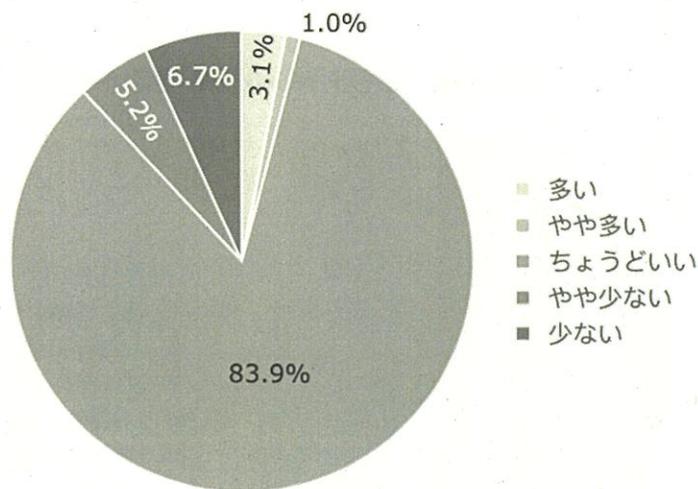


19 ここでの連絡とは、電話だけでなく、メール、SNS、対面、個別の職員からの連絡を含む。

施設等からの連絡頻度について回答者の思う充足度は、「ちょうどいい」が83.9%と多数を占め、次いで「少ない」6.7%、「やや少ない」5.2%と、施設等からの連絡頻度に過不足を感じていないようである（図表 2-48）。

単純に比較はできないが、『2020 年全国調査』と比較すると、2020 年の調査でも全国に比べ熊本県の充足度は高かったが、今回の調査では「ちょうどいい」が更に 13.6p 増加している（図表 2-49）。

図表 2-48 施設等からの連絡頻度の充足度 n=193



図表 2-49 施設等からの連絡頻度の充足度×2020 年全国調査

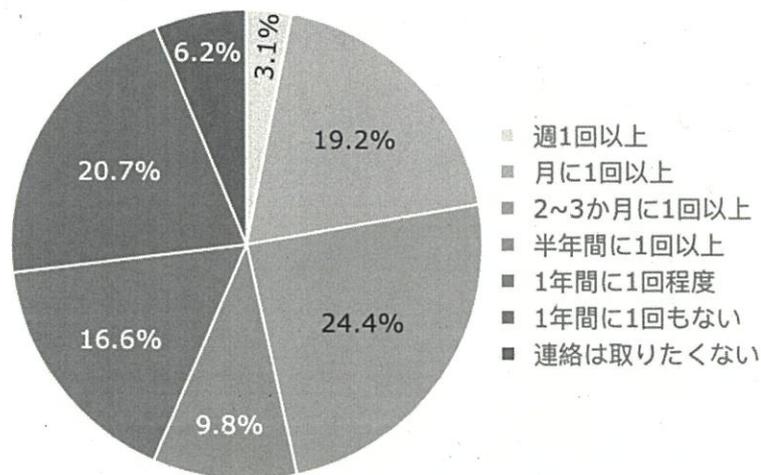
上段：度数 下段：%		多い	やや多い	ちょうどいい	やや少ない	少ない	無回答	回答者数
2020年 全国調査	全国	78 2.6%	65 2.2%	1961 65.8%	300 10.1%	521 17.5%	86 2.9%	2980 100.0%
	熊本県	1 1.1%	3 3.3%	64 70.3%	9 9.9%	13 14.3%	2 2.2%	91 100.0%
今回調査	熊本県	6 3.1%	2 1.0%	162 83.9%	10 5.2%	13 6.7%	0 0.0%	193 100.0%

④ 回答者から施設等への連絡頻度

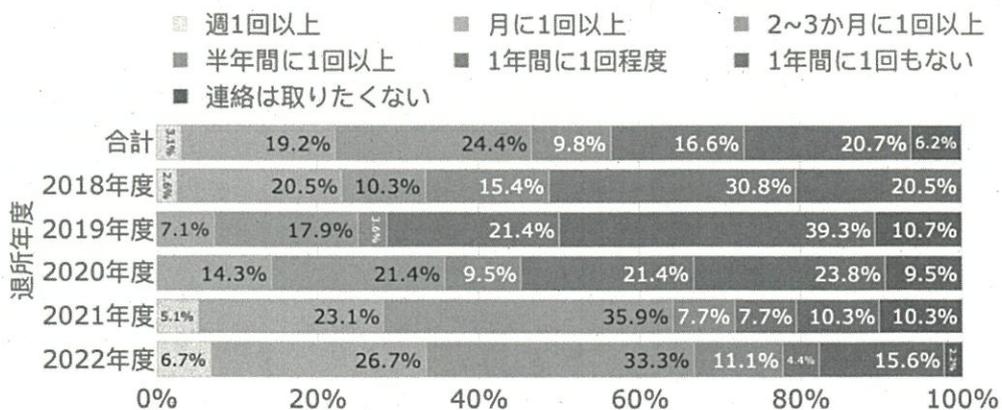
回答者から施設等への連絡頻度は、「2～3か月に1回以上」24.4%が最も多く、次いで「1年に1回もない」20.7%、「月に1回以上」19.2%となった(図表 2-50)。一方で、「連絡は取りたくない」という回答も6.2%あった。

回答者から施設等への連絡頻度と退所年度の間連をみると、施設等からの連絡頻度と同様に、2022年度の退所者は、「月に1回以上」26.7%、「2～3か月に1回以上」33.3%と連絡頻度が高くなっている(図表 2-51)。一方で、2018年度の退所者では、「1年に1回程度」30.8%、「年に1回もない」20.5%と、退所して年数が経過すると連絡頻度が低くなる。

図表 2-50 回答者から施設等への連絡頻度 n=193



図表 2-51 回答者から施設等への連絡頻度×退所年度



(7) 退所前の自立支援

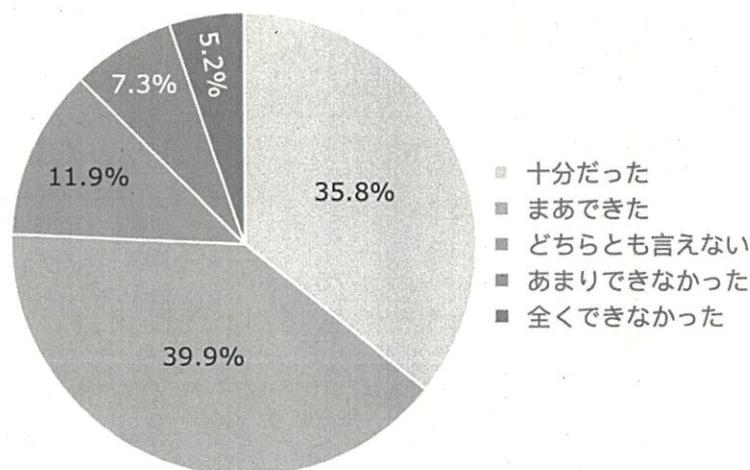
ここでは、自立準備の満足度、自立準備開始時期とその評価、施設等で受けた自立支援の内容、施設等の自立支援の有効性についてたずねた。

① 自立準備の満足度²⁰

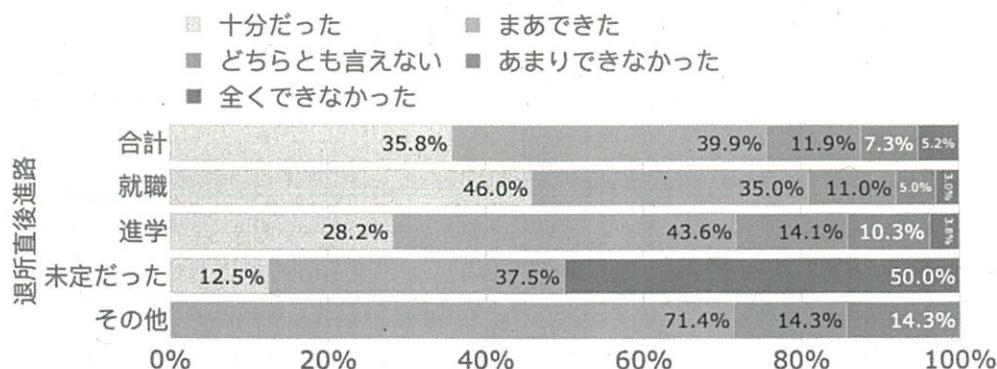
自立に向けた準備（退所準備）の満足度については、「まあ（準備が）できた」が最も多く 39.9%、次いで「十分だった」35.8%、「どちらとも言えない」11.9%となった（図表 2-52）。

自立準備の満足度と退所直後の進路の関連をみると、就職した者は、「十分だった」46.0%となった。一方で、進学した者は「十分だった」が 28.2%と、就職した者よりも準備への満足度が低くなっている（図表 2-53）。

図表 2-52 自立準備の満足度 n=193



図表 2-53 自立準備の満足度×退所直後の進路



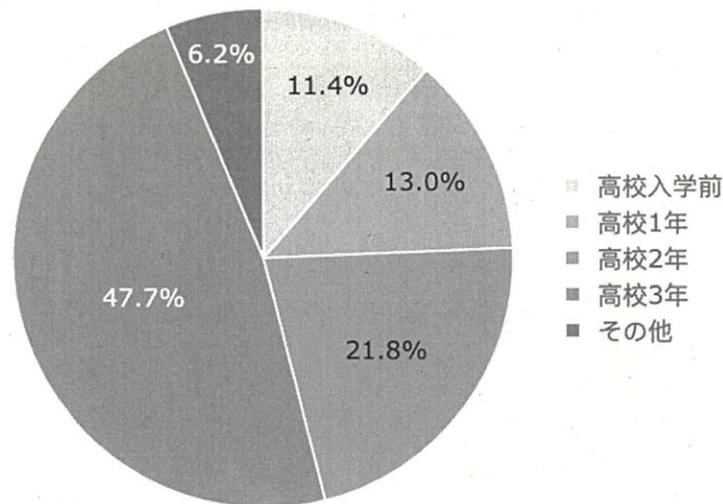
20 今回調査の新設設問のため、2020年全国調査のデータなし。

② 自立準備開始時期とその評価²¹

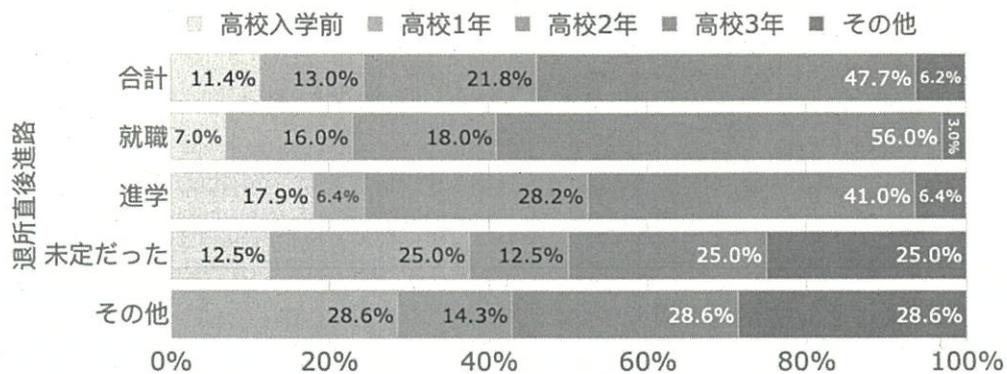
自立準備を開始した時期については、「高校3年」が47.7%で最も多く、次いで「高校2年」21.8%、「高校1年」13.0%となった(図表2-54)。

自立準備開始時期と退所直後の進路の関連をみると、就職した者は、「高校3年」が56.0%となった。一方で、進学した者は就職した者よりも取りかかりが総じて早く、「高校入学前」も17.9%あった(図表2-55)。

図表 2-54 自立準備開始時期 n=193



図表 2-55 自立準備開始時期×退所直後の進路

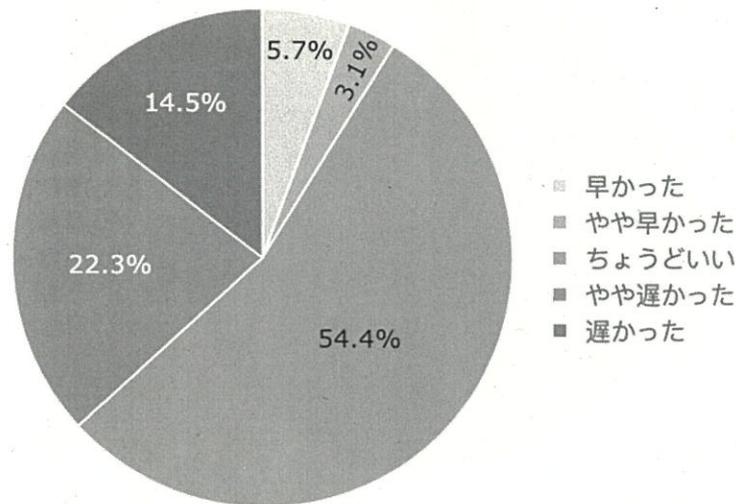


²¹ 今回調査の新設設問のため、2020年全国調査のデータなし。

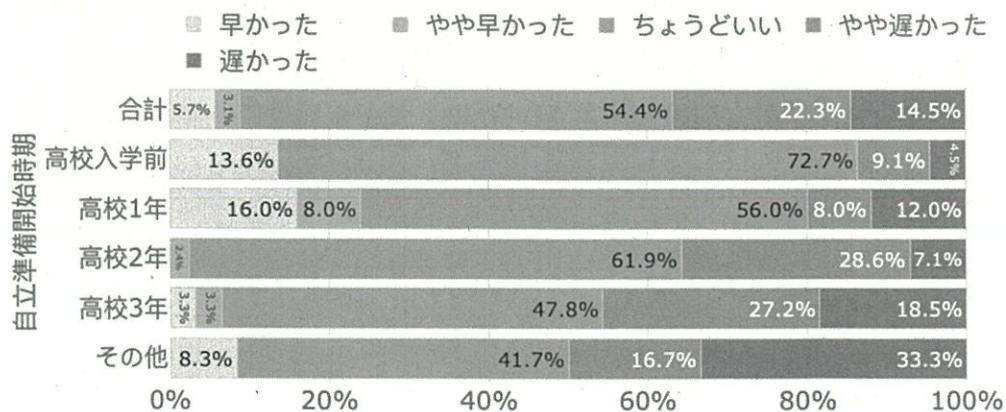
自立準備の開始時期への評価については、「ちょうどよかった」が54.4%と、半数は自立準備の開始時期に満足している(図表 2-56)。次いで、「やや遅かった」22.3%、「遅かった」が14.5%と4割近くは取りかかりが遅かったと感じているようである。

自立準備開始時期とその評価の関連をみると、高校入学前で準備を開始した者は「ちょうどいい」が72.7%と満足度が高い(図表 2-57)。一方で、高校3年で準備を開始した者は、「やや遅かった」27.2%、「遅かった」18.5%となった。

図表 2-56 自立準備開始時期への評価 n=193



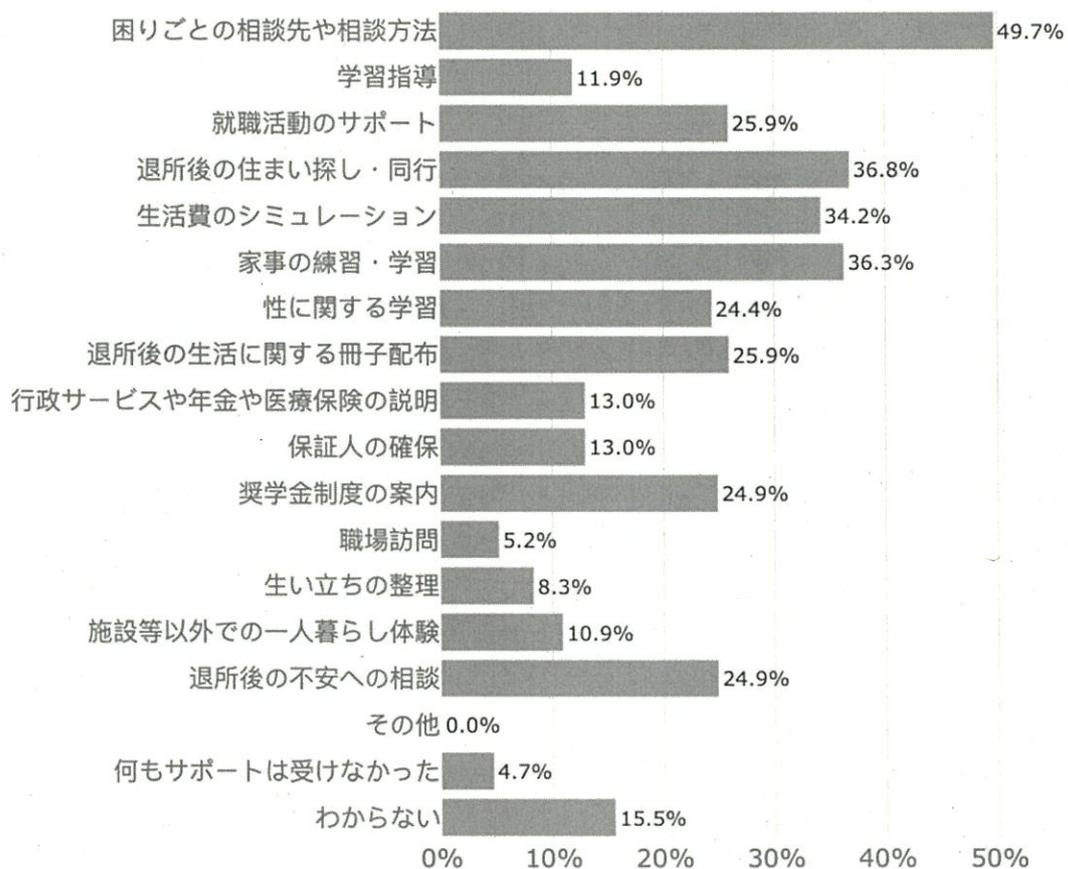
図表 2-57 自立準備開始時期への評価×自立準備開始時期



③ 施設等で受けた自立支援の内容

施設等で受けた自立支援の内容については、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」が 49.7%と最も多く、次いで「退所後の住まい探し・同行」が 36.8%、「家事（料理・掃除等）の練習・学習」36.3%、「生活費のシミュレーション」34.2%となった（図表 2-58）。

図表 2-58 施設等で受けた自立支援の内容 [複数回答] n=193



単純に比較はできないが、回答の上位 7 項目を『2020 年全国調査』と比較すると、「奨学金制度の案内」が 15.0p、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内」が 13.4p 増加している（図表 2-59）。

図表 2-59 施設等で受けた自立支援の内容×2020 年全国調査

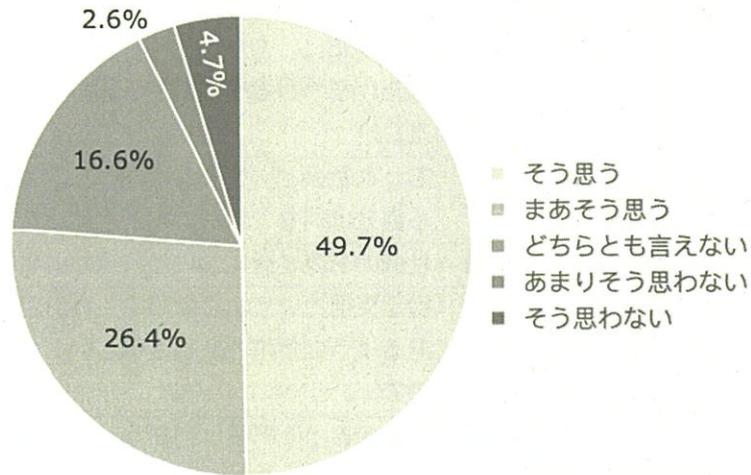
上段：度数 下段：%		困りごと やわから ないこと の相談先 や相談方 法の案内	退所後の 住まい探 し・同行	家事の練 習・学習	生活費の シミュ レーショ ン	就職活動 のサポー ト	退所後の 生活に関 する冊子 配布	奨学金制 度の案内	回答者数
2020年 全国調査	全国	1095 36.7%	1167 39.2%	939 31.5%	864 29.0%	794 26.6%	453 15.2%	494 16.6%	2980
	熊本県	33 36.3%	27 29.7%	26 28.6%	25 27.5%	31 34.1%	20 22.0%	9 9.9%	91
今回調査	熊本県	96 49.7%	71 36.8%	70 36.3%	66 34.2%	50 25.9%	50 25.9%	48 24.9%	193

④ 施設等の自立支援の評価

施設等で受けた自立支援は有効だと思うかとの質問には、「そう思う」49.7%、「まあそう思う」26.4%と、4分の3以上が有効であったと回答している（図表2-60）。

単純に比較はできないが、『2020年全国調査』では「わからない・覚えていない」が12.1%であったが、今回の調査では0.0%となり、自立支援の認知が高まっていると思われる（図表2-61）。

図表 2-60 施設等の自立支援の評価 n=193



図表 2-61 施設等の自立支援の評価×2020年全国調査

上段：度数 下段：%		有効だと思 う	まあ有効 だと思 う	どちらと も言えな い	あまり有 効だっ たと思わ ない	有効だっ たと思わ ない	わからな い・覚え ていない	利用した ことがな い	無回答	回答者数
2020年 全国調査	全国	1452 48.7%	549 18.4%	296 9.9%	71 2.4%	46 1.5%	233 7.8%	237 8.0%	96 3.2%	2980 100.0%
	熊本県	39 42.9%	16 17.6%	8 8.8%	5 5.5%	2 2.2%	11 12.1%	9 9.9%	1 1.1%	91 100.0%
今回調査	熊本県	96 49.7%	51 26.4%	32 16.6%	5 2.6%	9 4.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	193 100.0%

⑤ 自立支援への意見

回答者から寄せられた自立支援への自由回答を抜粋し、図表 2-62 に原文のまま掲載する。

図表 2-62 自立支援への意見（自由回答、順不同、原文のまま）

no.	性別	施設種類	退所年度	進路	回答内容
1	女性	施設	2021年度	進学	車の税とか、光熱費とか、一人暮らしに必要な金銭管理的なのをもっと早くに知っとくべきだった。
2	男性	施設	2020年度	進学	税金(所得税や年金など)のことをもっと具体的に勉強をして、生活費にいくら必要で、税金が引かれるためいくら稼がないといけないなど、もう少し詳しく知りたかった。 また、低所得者を援助する国の制度なども知りたかった。
3	男性	施設	2020年度	就職	もっと社会というものを知りたかった、施設を出てから自分は何もできないんだと知った。
4	男性	施設	2019年度	就職	社会の常識を身につける訓練が必要。
5	女性	施設	2018年度	進学	自立支援というより普段の生活で自分で考えて行動できるようにサポートしてほしい。なんでも制限が多いので。
6	女性	自援	2022年度	未定	自立する上で門限は必要か。遅く帰ろうが早かろうが、一度外に出たら危険と隣り合わせなのは時間関係なく変わらない。
7	男性	施設	2019年度	未定	一人一人に向き合ったプランを形成する必要がある。
8	女性	施設	2022年度	進学	私にはお金を出してくれる親がいるのですが、施設の先生はお金を出してくれる親がないことが前提の自立支援を子ども全員にしている、私が必要としていた支援をしてくれなかったと思います。 周りの子どもたちが熊本に残ってアルバイトをしながら専門学校に通うことが決まっていく中で、私は関東の4年制大学に進学するというかなりイレギュラーな進路を選びました。施設の先生たちもあまり理解はしてくれなかったと思います。「施設の子ども=金銭的に困る」というステレオタイプを前提にするのではなく、一人の子どもであった私と一緒に支援の内容を考えて欲しかったなと思います。

no.	性別	施設種類	退所年度	進路	回答内容
9	女性	施設	2019年度	その他	施設から学校へ通っている期間は、他のクラスメイト達と違う生活環境だったため、他の子と違うことが悩みだったので、その点のメンタルケアをしてほしかった。全く知らない人たちの中で突然生活をしないといけなくなり、とても苦痛だった。自立よりも、自立に必要なメンタルを支えて欲しかった。
10	男性	施設	2018年度	就職	僕は無駄と思いました。
11	女性	母子	2018年度	その他	本当は退所したくなかったが行政の予算等の問題で叶わなかった。
12	男性	施設	2018年度	その他	不安な事がおおかったが、質問に対し適した返答をくれて、不安を減らしてくれた。
13	男性	施設	2019年度	就職	先の事に不安を感じやすい自分の為に、施設の方々が手厚く支援してくださったことに今でも感謝しています。
14	女性	施設	2019年度	就職	私がいたところは本当に手厚くサポートしてくれる先生方が沢山いたので分からないことや、不安に思っていることはその都度話すようにしていました！
15	女性	施設	2022年度	就職	自分では分からない話を分かりやすく説明してくれて受けれる制度を詳しく教えてくれて有難かったです。

表中の略記：施設の種類 FH＝ファミリーホーム、自援＝自立援助ホーム、母子＝母子生活支援施設

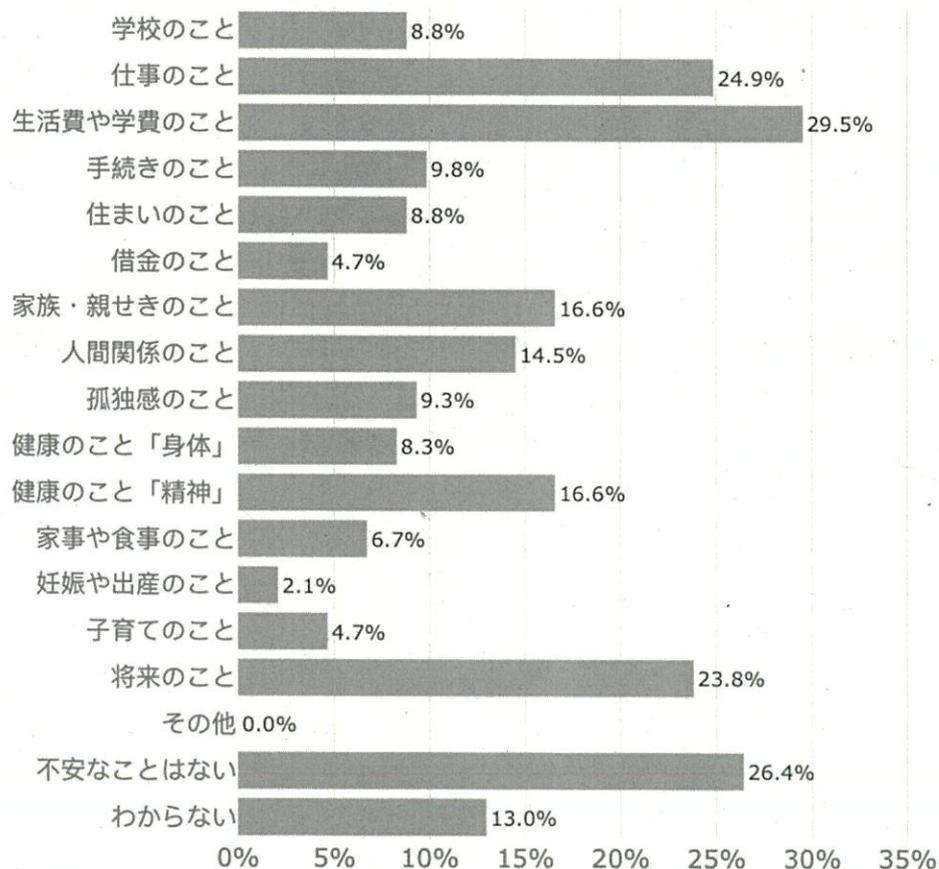
(8) 悩みと支援ニーズ

ここでは、現在困っていること、対人関係における心理的障壁、現在の相談相手、退所後に受けたサポートとその評価についてみていく。

① 現在困っていること²²

現在困っていることや不安について、「生活費や学費のこと」が29.5%と最も多く、次いで「仕事のこと」24.9%、「将来のこと」23.8%、「家族・親せきのこと」と「健康のこと（精神）」がそれぞれ16.6%となった（図表 2-63）。一方で、「不安なことはない」も26.4%と多かった。

図表 2-63 現在困っていること [複数回答] n=193



22 「手続きのこと」「わからない」は、今回調査の新設選択肢のため、2020年全国調査のデータなし。今回調査では、「妊娠出産のこと」と「子育てのこと」を分割。

単純に比較はできないが、回答の上位 7 項目を『2020 年全国調査』と比較すると、2020 年調査において熊本県は「借金のこと」が全国の値よりもやや高かったが、今回の調査では△14.0p 減少、「生活費や学費のこと」でも△13.4p 減少し、経済的な不安は以前よりも和らいでいると推察される（図表 2-64）。

図表 2-64 現在困っていること×2020 年全国調査

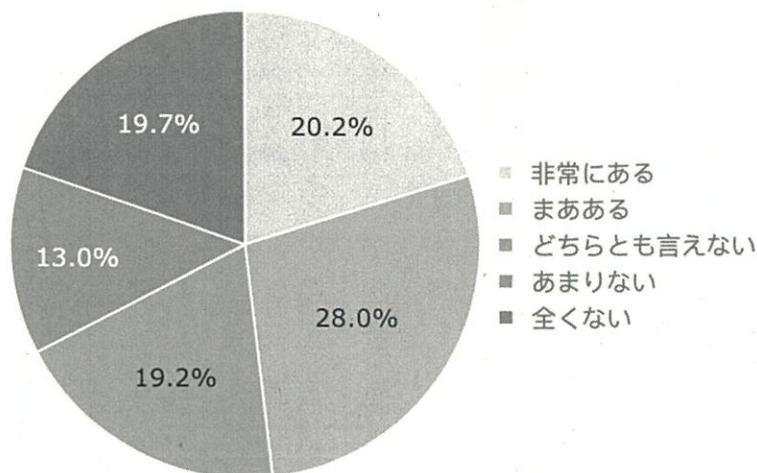
上段：度数 下段：%		生活費や 学費のこ と	仕事のこ と	将来のこ と	家族・親 せきのこ と	健康のこ と（精 神）	借金のこ と	不安なこ とはない	回答者数
2020年 全国調査	全国	1000 33.6%	792 26.6%	940 31.5%	433 14.5%	573 19.2%	272 9.1%	736 24.7%	2980 100.0%
	熊本県	39 42.9%	17 18.7%	19 20.9%	7 7.7%	8 8.8%	17 18.7%	25 27.5%	91 100.0%
今回調査	熊本県	57 29.5%	48 24.9%	46 23.8%	32 16.6%	32 16.6%	9 4.7%	51 26.4%	193 100.0%

② 対人関係における心理的障壁²³

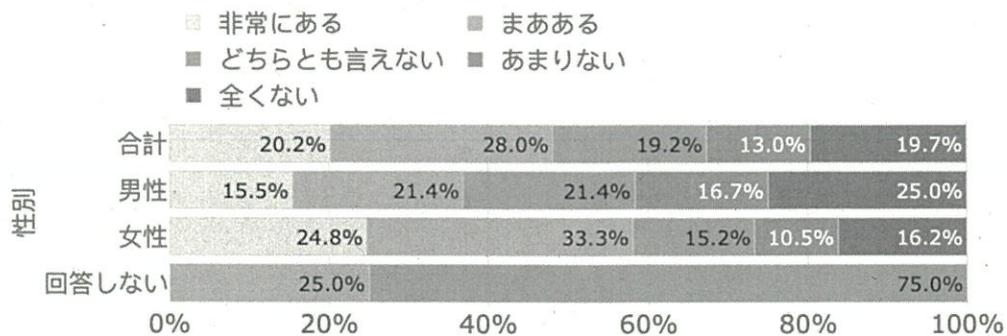
対人関係に関する心理的障壁（自分の生き立ちを考えて、結婚、恋愛、交友、職場において後ろ向きな気持ちになること）について、「非常にある」20.2%、「まあある」28.0%と、5割弱が心理的障壁を感じている(図表 2-65)。

対人関係における心理的障壁と性別の関連をみると、女性は「非常にある」24.8%と「まあある」33.3%とで6割弱が心理的障壁を感じている(図表 2-66)。一方で、男性は「ある（非常にある、まあある）」という回答と、「ない（あまりない、全くない）」という回答が拮抗している。

図表 2-65 対人関係における心理的障壁 n=193



図表 2-66 対人関係における心理的障壁×性別

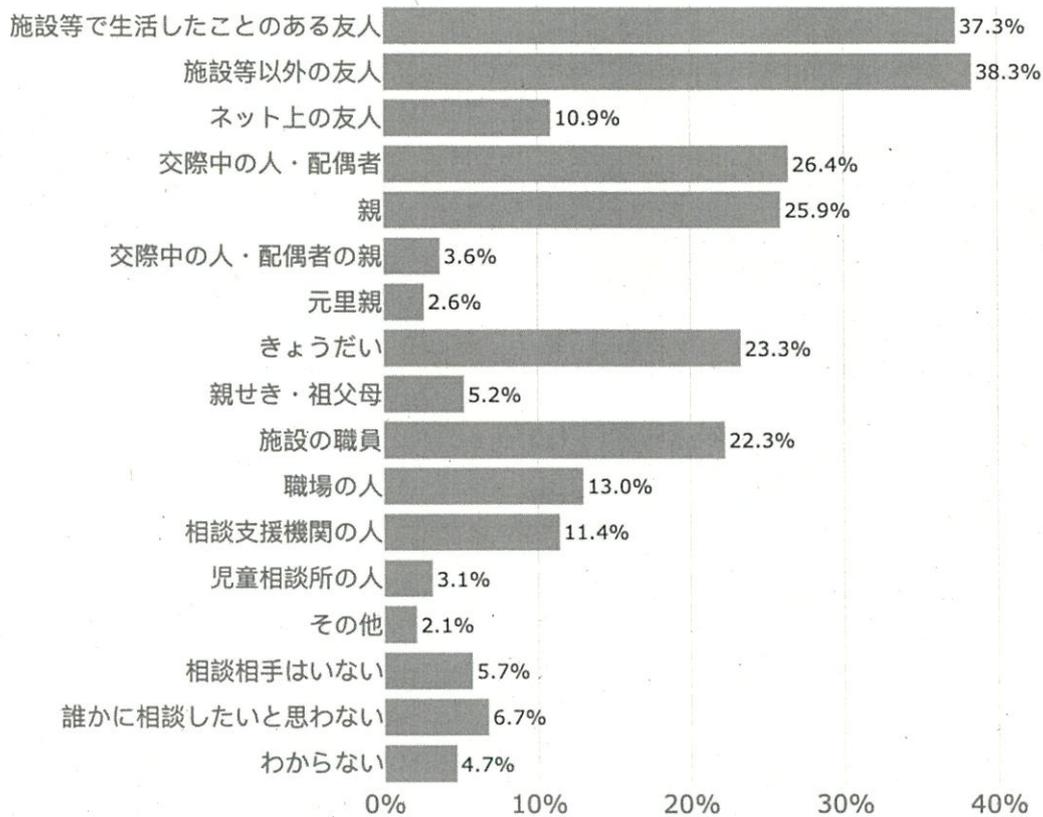


23 今回調査の新設設問のため、2020年全国調査のデータなし。

③ 現在の相談相手²⁴

現在の相談相手については、「施設等以外の友人」38.3%、「施設等で生活したことのある友人」37.3%、「交際中の人・配偶者」26.4%、「親」25.9%、「きょうだい」23.3%、「施設等の職員」22.3%となった（図表 2-67）。また、今回調査で新たな選択肢として加えた「ネット上の友人」は10.9%となった。

図表 2-67 現在の相談相手〔複数回答〕 n=193



24 「ネット上の友人」は、今回調査の新設選択肢のため、2020年全国調査のデータなし。

単純に比較はできないが、『2020年全国調査』と比較すると、「施設等の職員」が△14.0p、「施設等で生活したことのある友人」が△11.1pと減少している（図表2-68）。

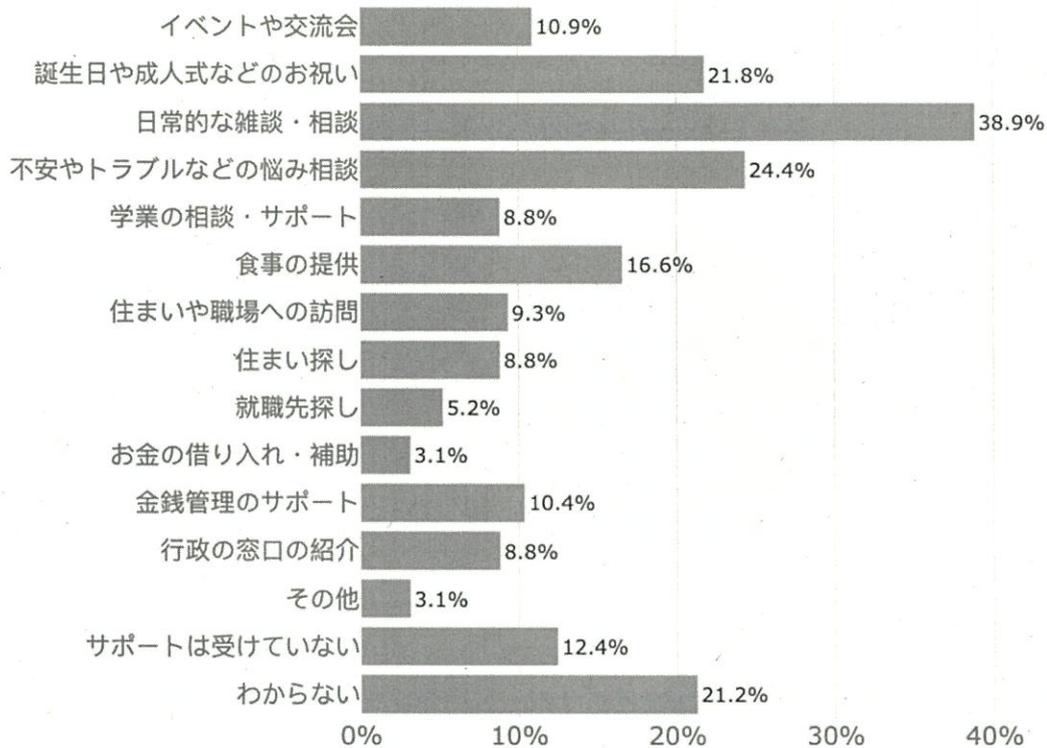
図表 2-68 現在の相談相手×2020年全国調査

上段：度数 下段：%		施設等以外の友人	施設等で生活したことのある友人	交際中の 人・配偶者	親	きょうだい	施設等の職員	回答者数
2020年 全国調査	全国	1049 35.2%	1020 34.2%	749 25.1%	597 20.0%	563 18.9%	1106 37.1%	2980 100.0%
	熊本県	41 45.1%	44 48.4%	24 26.4%	28 30.8%	24 26.4%	33 36.3%	91 100.0%
今回調査	熊本県	74 38.3%	72 37.3%	51 26.4%	50 25.9%	45 23.3%	43 22.3%	193 100.0%

④ 退所後に受けたサポートとその評価

退所後に受けたサポートについては、「日常的な雑談・相談」が最も多く 38.9%、次いで「不安やトラブルなどの悩み相談」24.4%、「誕生日や成人式などのお祝い」21.8%、「食事の提供」16.6%となった(図表 2-69)。一方で、「わからない」も 21.2%あった。

図表 2-69 退所後に受けたサポート [複数回答] n=193

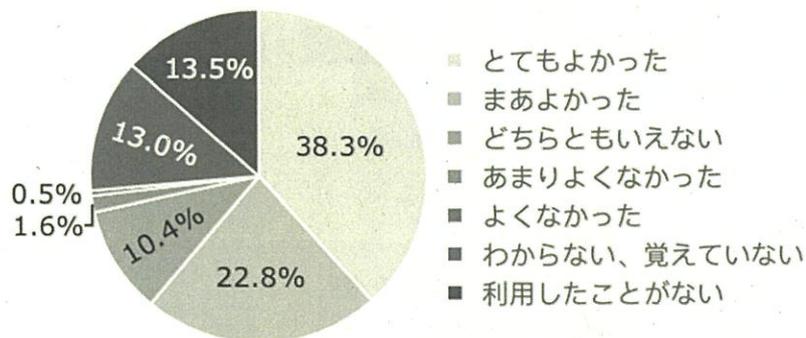


退所後に受けたサポートに対する評価は、「とてもよかった」が 38.3%、「まあよかった」が 22.8%と、良かったとの評価が 6 割以上となった(図表 2-70)。

単純に比較はできないが、『2020 年全国調査』と比較すると、「とてもよかった」が 37.2p、「まあよかった」が 19.5p 増加し、「よくなかった」が△28.1p、「利用したことがない」が△16.2p と大幅に減少しており、施設等をはじめとするアフターケアが奏功しているものと思われる(図表 2-71)。

また、退所後に受けたサポートの回答個数と評価の関連をみると、評価が「とてもよかった」と回答した者は 2.8 個、「まあよかった」と回答した者は 2.0 個と、評価が高いほど退所後受けているサポート数も多いと推察される。

図表 2-70 退所後受けたサポートの評価 n=193



図表 2-71 退所後受けたサポートの評価×2020 年全国調査

上段：度数 下段：%		とてもよ かった	まあよ かった	どちらと もいえな い	あまりよ くなかつ た	よくな かった	わからな い、覚え ていない	利用した ことがな い	無回答	回答者数
2020年 全国調査	全国	115 3.9%	67 2.2%	379 12.7%	328 11.0%	797 26.7%	373 12.5%	858 28.8%	63 2.1%	2980 100.0%
	熊本県	1 1.1%	3 3.3%	10 11.0%	9 9.9%	26 28.6%	14 15.4%	27 29.7%	1 1.1%	91 100.0%
今回調査	熊本県	74 38.3%	44 22.8%	20 10.4%	3 1.6%	1 0.5%	25 13.0%	26 13.5%	0 0.0%	193 100.0%

(9) 心のよりどころ

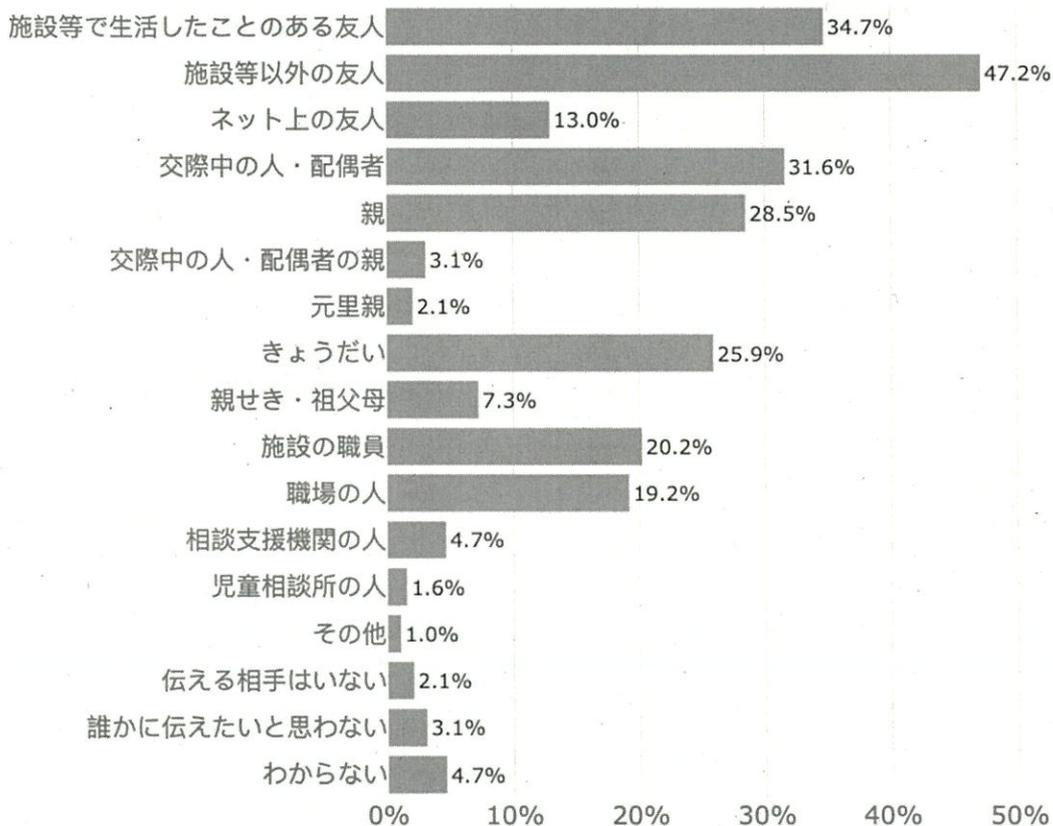
最後に、ここでは心のよりどころとして、嬉しかったことを伝える相手、安心安全な居場所とその内容についてみていく。

① 嬉しかったことを伝える相手²⁵

嬉しかったことを伝える相手については、「施設等以外の友人」47.2%、「施設等で生活したことがある友人」34.7%、「交際中の人・配偶者」が31.6%、「親」が28.5%、「きょうだい」25.9%、「施設等の職員」20.2%となった（図表 2-72）。

また、今回調査で新たな選択肢として加えた「ネット上の友人」は13.0%となった。前出の現在の相談相手と順位は変わらないが、それぞれの数値は微増となっており、相談よりも嬉しかったことの方が伝えやすいようである。

図表 2-72 嬉しかったことを伝える相手〔複数回答〕n=193



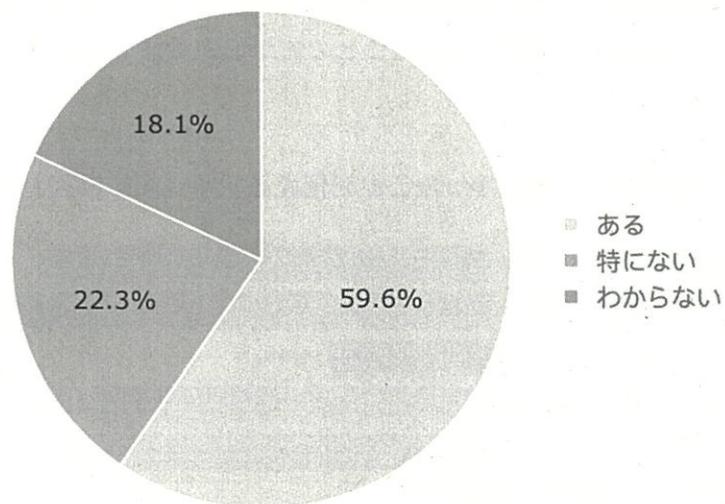
25 今回調査の新設設問のため、2020年全国調査のデータなし。

② 安心安全な居場所²⁶とその内容

安心安全な居場所について、「(安心安全な居場所が) ある」と回答した者は59.6%、「特にない」が22.3%、「わからない」が18.1%となった(図表 2-73)。

安心安全な居場所が「ある」と回答した者に、その具体的な内容を自由回答でたずねた。回答者115名中87名(記入率75.6%)が自由回答を記入。内容は多岐にわたり、それぞれに安らぎ楽しんでいる様子が伝わってくる。特徴的な回答を次ページ図表 2-74 にまとめた。

図表 2-73 安心安全な居場所 n=193



26 今回調査の新設設問のため、2020年全国調査のデータなし。

図表 2-74 安心安全な居場所（自由回答、順不同、原文のまま）

no.	性別	施設種類	退所年度	進路	回答内容
1	男性	里親	2018年度	就職	バイクでツーリング
2	男性	FH	2019年度	就職	可能な限り好きな映画や動画を見て知的好奇心を満たすこと
3	女性	自援	2022年度	就職	バドミントンをしたり、料理をしたりする。猫が好きだから野良猫探しの旅（散歩）をする
4	女性	里親	2022年度	就職	写真を撮りに行くこと
5	男性	施設	2020年度	就職	漫画、ゲーム、アニメなどの鑑賞
6	女性	母子	2018年度	進学	バレーボールの練習に参加する
7	男性	FH	2018年度	就職	友達と遊んでいる時
8	男性	施設	2022年度	進学	自分の好きなゲームだったり趣味に活用する時間
9	男性	施設	2018年度	その他	娯楽施設(カラオケやゲームセンター)や、音楽、美術等の趣味
10	男性	施設	2019年度	就職	アイドルの応援を趣味としていて、その趣味を通じてSNS上で知り合った友人達と絶えず交流しています。LIVEで会ってお話したり、プライベートで食事に行ったり等。
11	女性	施設	2021年度	就職	YouTube見る事。飼い猫と家でゆっくりすること。
12	男性	施設	2020年度	進学	ディズニーランドの近くに住んでいるため、よく遊びに行ってます。
13	女性	施設	2021年度	進学	社会人のバドミントンクラブに所属していること。大学の先輩・後輩など身近な人たちの同じ趣味仲間みたいなものでバド以外にもプライベートに遊びに行ったりするほど仲がよくて、居心地がいい。仕事も頑張れる。
14	女性	施設	2019年度	就職	友達と会ったり、人と話したり、子供のことに集中すること！
15	男性	施設	2018年度	就職	趣味は車です。スポーツカーに乗っていて維持費や改造費に、沢山のお金が掛かります。その為、働きたくなくても働いて、仕事で上司に怒られても、自分の愛車に乗ってツーリングなどに行くと全て忘れますし、自分で車をイジってる時も楽しいです。スポーツカーに乗るのが夢だったので今は凄く幸せです。
16	女性	施設	2020年度	進学	家にひきこもって好きなアイドルを見ること、旅行に行くこと

表中の略記：施設の種類 FH＝ファミリーホーム、自援＝自立援助ホーム、母子＝母子生活支援施設

